

C81JP1572

J 日本語

dp2

Quattro

使用説明書

このたびはシグマ製品をお買い上げ頂き ありがとうございます。

カメラの機能を十分に理解していただき、正しくより良い撮影ができますように、ご使用前にこの説明書をよくお読みになり、いつまでもご愛用頂きたくお願い申し上げます。

- 使用説明書は、必要なときにいつでも御覧いただける場所に保管して、使用の際に不明な点が生じた場合にご活用ください。
- この製品の保証の内容、およびアフターサービスについては、別紙の“保証書”を御覧ください。

著作権について

あなたが本カメラで記録した画像は、個人で楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。尚、実演や興行、展示会などのなかには、個人で楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- FOVEON は、Foveon Inc.の登録商標です。X3 および X3 ロゴは、Foveon Inc.の商標です。
- SD ロゴは、登録商標です。
- IBM PC / AT シリーズは、米国 International Business Machines 社の商標、または登録商標です。
- Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、および Mac OS は、米国およびその他の国で登録された、米国 Apple Inc の商標です。
- Adobe、Photoshop は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- その他本冊子中の社名や商品名は、各社の商標、もしくは登録商標です。
- 本製品はメニュー表示等に、株式会社リコーがデザイン制作したエレメント方式フォントを使用しています。

妨害電波自主規制について

本カメラは、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラス B 情報技術装置です。本カメラは、家庭環境で使用することを目的としていますが、本カメラをラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

カメラと付属品の確認

ご使用になる前に、以下のものがすべて揃っているかご確認ください。万一、不足しているものがある場合、お買い上げの販売店にご連絡ください。

- ① dp2 Quattro カメラ本体
- ② レンズキャップ（カメラ本体に付属）
- ③ ホットシューカバー（カメラ本体に付属）
- ④ ストラップ
- ⑤ 電池ケース
- ⑥ バッテリーパック BP-51（2 個）
- ⑦ バッテリーチャージャー BC-51
- ⑧ バッテリーチャージャー用 AC ケーブル
- ⑨ USB ケーブル
- ⑩ 使用説明書（本書）
- ⑪ 保証書
- ⑫ 保証書シール
- ⑬ 電池目印シール

- 画像を記録するメモリーカードは付属していません。別途お買い求めください。

目次

カメラと付属品の確認	3
目次	4
安全上のご注意	7
取り扱い上のご注意	10
メモリーカードについて（別売）	11
各部の名称	12
液晶モニタの表示	14
操作の流れと参照項目	15
カメラを使う準備をする	18
ストラップの取り付け方	19
レンズキャップ	20
電池を入れる	20
電池を充電する	20
電池の入れ方	22
言語の設定	24
日付と時間の設定	25
セットアップメニュー	27
クイックセットメニュー	34
液晶モニタの表示を切り替える	36
カードの入れ方と取り出し方	37
カードの初期化	39
シャッターボタンの押し方	40
撮影した画像を確認する	41
基本撮影	42
露出のモードを選ぶ	43
露出モードの選び方	43
P プログラムオート	44
A 絞り優先オート	45
S シャッター速度優先オート	46
M マニュアル露出	47
ピントを合わせる	48
フォーカスモードを選ぶ	48
オートフォーカスによるピント合わせ	48

フォーカスフレームの設定.....	49
フォーカスロック撮影.....	50
AF+MF モード.....	50
AF リミットモード.....	51
顔優先 AF モード.....	53
速度優先 AF.....	54
マニュアル（手動）でのピント合わせ.....	54
ドライブモードを選ぶ.....	56
1 コマ撮影.....	56
連続撮影.....	57
セルフタイマー撮影.....	57
インターバルタイマー撮影.....	58
応用撮影.....	60
ホワイトバランスの設定（WB）.....	61
ISO 感度の設定.....	66
画像の設定.....	69
測光モード.....	72
AE ロック.....	73
露出補正.....	75
オートブラケット撮影.....	75
カラーモード.....	78
白とび軽減.....	81
トーンコントロール.....	81
カラースペース.....	82
縦位置情報記録.....	82
カスタムモード.....	83
フラッシュを使う.....	85
フラッシュ撮影.....	85
フラッシュモードの設定.....	86
調光補正.....	88
画像の再生、消去.....	89
画像の再生.....	90
1 画像再生.....	91
拡大して表示する（拡大表示）.....	92

9 画像表示（コンタクトシート表示）	93
画像情報を見る	94
ヒストグラム	96
ファイルの消去	97
消去ボタンで消去する	97
消去メニューからファイルを消去する	98
再生時のその他の機能	99
ファイルをロックする	100
画像をマークする	102
画像を回転する	104
露出警告	106
OK ボタンの割り当て	107
画像に音声メモを付ける	108
スライドショーを見る	110
DPOF プリント	112
その他の設定変更	113
ファイル番号の設定	114
ファイル名の変更	115
液晶モニタ表示のカスタマイズ	116
ダイヤルのカスタマイズ	119
LCD オフとオートパワーオフ	120
ECO モード	121
音声設定	122
設定の初期化	123
パソコンと接続する	124
参考資料	126
別売アクセサリ	127
家庭用電源の使い方（別売）	128
お手入れについて	130
困ったときは	131
主な仕様	134

安全上のご注意

人的損害や物的損害を未然に防止するため、ご使用前にこの項目の内容を十分ご理解いただくようお願いいたします。

- ⚠ 警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
- ⚠ 注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

各文章の **⚠** 記号は注意、もしくは警告を促す内容を告げています。

各文章の **🚫** 記号は行為を禁止する内容を告げています。

⚠ 警告 (電池、充電器、電源について)

- ⚠** 電池はお子様の手の届かない場所に保管してください。万一飲み込んだ場合、液漏れにより健康を害するおそれがあります。ただちに医師にご相談ください。
- 🚫** 使用説明書に指定されていない電池は使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、カメラの破損、けが、火災の原因となります。
- 🚫** 電池は指定された機器以外には使用はしないでください。電池の破裂、液漏れにより、カメラの破損、けが、火災の原因となります。
- 🚫** 強い衝撃や振動を与えたり、投げつけないでください。電池の破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。
- 🚫** 電池の分解、火中、水中への投下、加熱、ショートは絶対しないでください。電池の破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。
- 🚫** 指定されていない電池を充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。
- ⚠** 万一、カメラや電池から煙が出る、異常に熱くなる、焦げ臭いなどの現象が起きた場合、ヤケドに注意し速やかに電池を抜いて、ご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡ください。
- ⚠** 電池を処分される場合は、テープなどで接点部を絶縁してください。また、お住まいの自治体の規則に従ってください。
- ⚠** 長期間使用しない場合、電池室から電池を取り出してください。長期間放置しますと液漏れによるカメラの破損の原因となります。

-  AC電源を使用する際は、必ず専用のACアダプターを使用してください。感電、発火の原因となります。
-  専用のACアダプターは、他の機器に使用しないでください。発熱、発火、感電、けがの原因となります。
-  ACアダプターを使用中に煙や異臭、異音が発生した場合、すぐにコンセントを抜いてください。火災や感電の原因となります。
-  水や異物がACアダプター内に侵入した場合、すぐにコンセントを抜いてください。火災や感電の原因となります。
-  改造や分解はしないでください。火災や感電の原因になります。
-  コードの上に重たい物をのせたり、コードを引いたり曲げたり、また熱したりしないでください。コードの損傷、火災や感電の原因になります。
-  指定(AC100V-240V)された以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になります。
-  電源コードは、指定されているものを使用してください。

警告 (カメラについて)

-  プロパンガス、ガソリンなどの引火性のガスが発生する場所では、火災、爆発のおそれがありますので、絶対に使用しないでください。
-  カメラはお子様の手の届かない場所に保管してください。誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
-  カメラは自分で分解、改造しないでください。感電、ヤケドのおそれがあります。
-  落下等で破損した場合、内部に手を触れないでください。感電、ヤケドのおそれがあります。電池を抜いて、ご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡ください。
-  水中に落としたり内部に水が入った場合、電池を抜いてご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡ください。そのまま放置しますと火災や感電の原因となります。
-  カメラ本体のコネクター部に、金属片等を差し込まないでください。感電、発熱、発火の原因となります。
-  フラッシュを人の目に近づけて発光しないでください。視力障害の原因となります。特に乳幼児を撮影する場合は、1m以上離れてください。

-  フラッシュの発光部を手で覆ったまま発光しないでください。ヤケドの原因となります。

⚠注意 (充電器、電源について)

-  充電器や AC アダプターをコンセントから抜く場合、コードを引っ張らないでください。コードを痛め、火災や感電の原因となります。常にプラグを持ってコンセントから引き抜いてください。
-  充電器や AC アダプターを布やクッションなどで覆い被さないでください。発熱し、本体を変形させたりし、火災の原因となります。
-  使用しない場合は、安全の為コンセントを抜いてください。
-  充電器や AC アダプターを掃除する場合は、安全の為コンセントから抜いて行ってください。

⚠注意 (カメラについて)

-  レンズキャップをはずしたまま放置しないでください。レンズに長時間日光があたった場合、カメラの故障や火災の原因となることがあります。
-  三脚にカメラを取り付けたまま移動しないでください。転倒したりぶつかりたりして、けがの原因となることがあります。
-  カメラをぬれた手でさわらないでください。感電することがあります。
-  カメラを熱いものの近くや、日中の車内に放置しないでください。カメラ自体が高温になり、ヤケドの原因となることがあります。
-  液晶モニタが破損した場合、ガラスの破片にご注意ください。ケガの原因となります。また、破損により液晶モニタ内部の液体が流出し、以下のような状況になった場合、それぞれの対処を行ってください。
- 液体が衣服や皮膚に付着したときは、ただちに石鹸で洗い流してください。
 - 液体が目に入ったときは、ただちにきれいな水で 15 分以上洗浄し、医師の診療を受けてください。
 - 液体を飲み込んだときは、大量の水を飲んで吐き出し、医師の診療を受けてください。

取り扱い上のご注意

ご使用前に

結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には、事前のチェックや試し撮りをして、カメラが正常に作動するか必ず確認してください。撮影に要した諸経費、および撮影により得べかりし利益の損失等については保証致しかねます。

長期間の旅行、野外撮影、寒冷地での撮影、またはたくさんの写真を撮られるようなときなどには、満充電の電池を多めに用意することをおすすめします。

ご使用の環境や注意点について

- カメラは精密機械です。ぶつかけたり、落としたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので水中では使用できません。水滴がついた場合は速やかに乾いたきれいな布で拭きとってください。万一、水がかかったり、水中に落とした場合には早めに弊社営業所にご連絡ください。
- ほこりの多い場所や高温多湿の場所（特に日中の車内等）へ長時間放置しないでください。
- 寒い場所から温かい室内に持ち込む場合、カメラに水滴が生じます。カメラをバックやビニール袋に入れて周囲の温度になじませてからご使用ください。
- このカメラの使用可能温度は約 0℃～+40℃、使用可能湿度は約 85%以下（結露しないこと）です。0℃以下になると電池の性能低下が影響します。寒い場所では予備の電池を用意し、ポケットに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。
- 静電気や磁気の影響により、まれにカメラが作動しなくなることがあります。このようなときは、一旦電池を取り出して再度装填し直してください。また、強い電波や磁気の発生する場所では、カメラが正常に作動しない場合があります。

長時間撮影の注意点について

- カメラの表面が熱くなる場合がありますが、故障ではありません。
- 長時間連続して撮影すると、カメラの温度が上昇し、警告マーク (⚠) が表示されます。さらに温度が上昇すると、警告メッセージが表示され、自動的にカメラの電源が切れます。

- カメラの電源が切れた場合は、カメラの温度を充分下げるために、10分以上放置してください。
- カメラの温度が上昇すると、画質が低下する場合があります。警告マーク (⚠) が表示されたら、カメラの電源を切り、温度が下がるのを待って撮影されることをおすすめします。

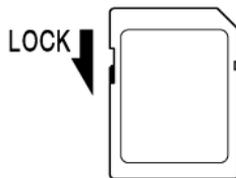
メモリーカードについて（別売）

本カメラに使用できるメモリーカードは SD メモリーカード、SDHC メモリーカード*、SDXC メモリーカード* です。

* UHS-1 規格のメモリーカードも使用できます。

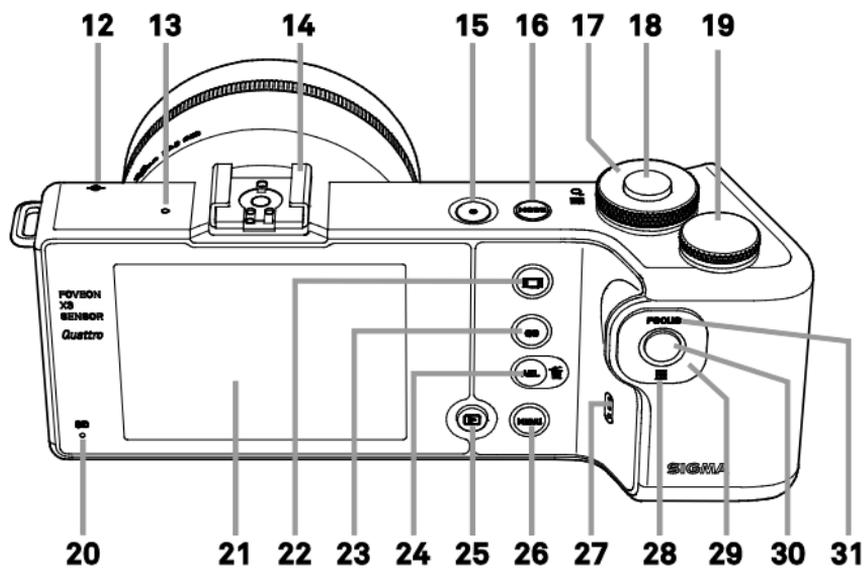
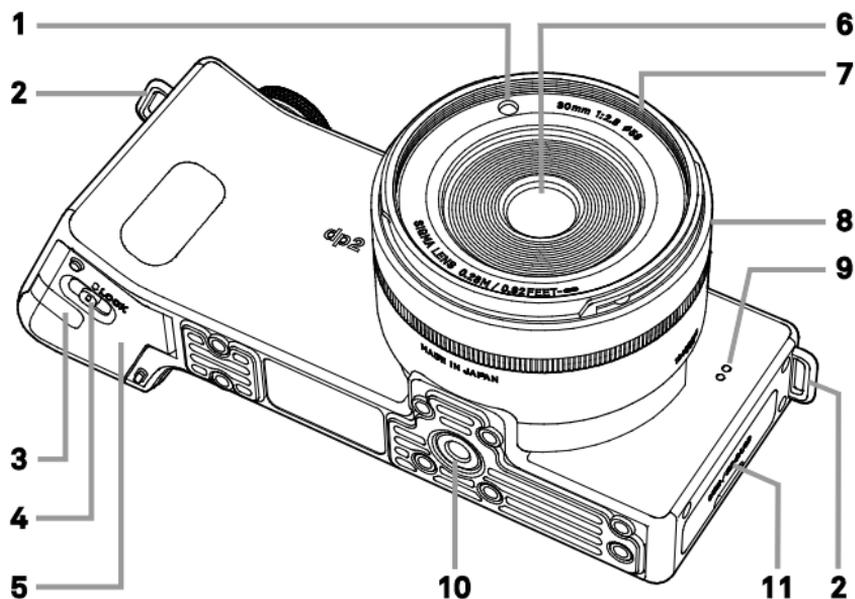
- 本書では SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカードを「カード」と記載しています。
- 本カメラには SDHC メモリーカード、もしくは SDXC メモリーカードのご使用をおすすめします。

- SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカードはカードへの書込みやフォーマットを禁止できる書込み禁止スイッチを備えています。「LOCK」側にしておく、ファイルの誤消去を防ぐことができます。



- カードを直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばに放置しないでください。
- カードを温度の高い場所、湿度の高い場所、静電気の起こりやすい場所や電磁波が発生している場所に保管しないでください。
- カードの詳細な取扱い方法については、それぞれの使用説明書の内容に従ってください。
- カメラの「カードの初期化」やパソコンの「削除」の機能では、ファイル管理情報が変更されるだけで、メモリーカード内のデータは完全には消去されません。廃棄／譲渡の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってメモリーカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

各部の名称



1	補助光窓	20	アクセスランプ
2	ストラップ取付金具	21	液晶モニタ
3	DC コネクタカバー	22	 (ディスプレイ) ボタン
4	開閉レバー	23	QS (クイックセット) ボタン
5	電池室ドア	24	AEL (AE ロック) ボタン/  (消去) ボタン
6	レンズ	25	 (再生) ボタン
7	フィルターねじ	26	MENU (メニュー) ボタン
8	フォーカスリング	27	スピーカー
9	マイク	28	 (フォーカスフレーム) ボタン
10	三脚ねじ穴	29	セレクトター
11	カード/USB カバー	30	 (OK) ボタン
12	撮像素子位置マーク	31	FOCUS (フォーカスモード) ボタン
13	フォーカスランプ		
14	ホットシュー		
15	電源スイッチ		
16	モードボタン		
17	前ダイヤル		
18	シャッターボタン		
19	後ダイヤル		

セレクトター (29) について

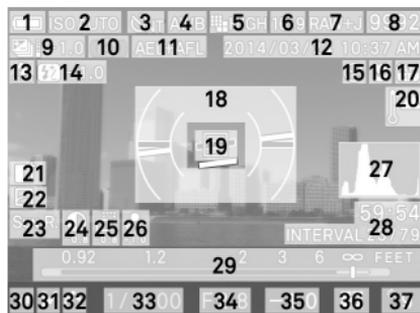
本書ではセレクトターの各ポジションを \wedge / \vee / \langle / \rangle で表しています。



- 上下で操作する場合は \diamond 、左右で操作する場合は $\langle \rangle$ 、上下左右で操作する場合は $\langle \diamond \rangle$ で表しています。

液晶モニタの表示

静止画撮影時に表示されるアイコンを説明します。



1	電池残量表示
2	ISO 感度
3	ドライブモード
4	ホワイトバランス フィルター効果 (モノクローム時)
5	画像サイズ
6	アスペクト比
7	画質
8	撮影可能枚数
9	オートブラケット ※
10	手ぶれ警告マーク
11	AE ロック ※
12	日付時刻 ※
13	フラッシュモード ※
14	調光補正值 ※
15	顔優先 AF モード ※
16	AF リミットモード ※
17	フォーカスモード ※
18	水準器表示 ※
19	フォーカスフレーム

20	温度上昇警告マーク
21	白とび軽減 ※
22	トーンコントロール
23	カラーモード 調色 (モノクローム時)
24	コントラスト ※
25	シャープネス ※
26	彩度 ※
27	ヒストグラム ※
28	インターバル撮影 ※
29	スケールバー ※
30	合焦表示
31	露出モード
32	カスタムモード ※
33	シャッター速度
34	絞り値
35	露出補正值 / 露出メーター
36	測光モード
37	バッファ残量

※設定時のみ表示されます。



静止画撮影直後、カメラ内で画像処理中に表示されるアイコンです。このアイコンの表示されている間は、次の撮影やボタンによる操作ができません。

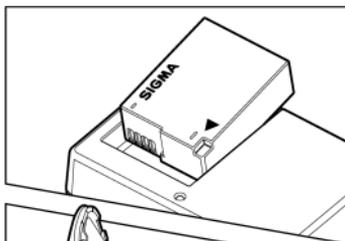


スローシャッター時、露光中であることを示すアイコンです。

操作の流れと参照項目

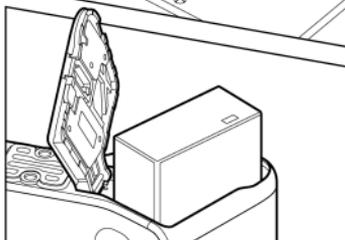
dp2 Quattro にはたくさんの機能がありますが、このページでおおよその流れをつかんで、各項目で操作の詳細をマスターしてください。

カメラを使う準備をします



電池を充電します (P.20)

付属の専用リチウムイオン充電機を専用充電器で充電します。



電池を入れます (P.22)



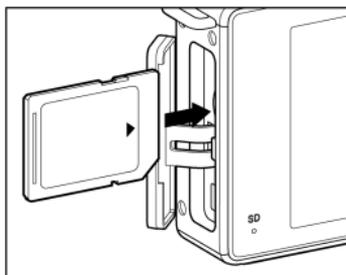
言語を設定します (P.24)

メニュー画面の文字が、ご使用になりたい言語と異なる場合は、言語を変更します。



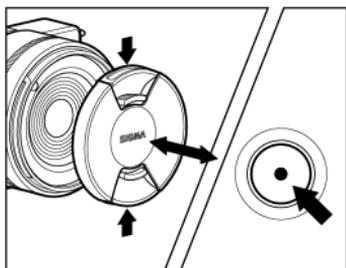
日付と時間を設定します (P.25)

ファイルに撮影日時が正しく記録されるように、日付と時間の設定をします。



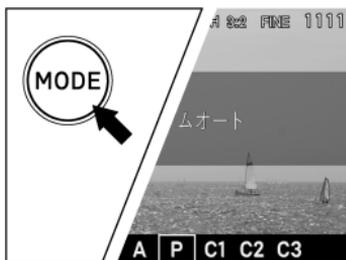
カードを入れます (P.37)

撮影します



電源を入れます

レンズキャップを外して電源ボタンを押します。



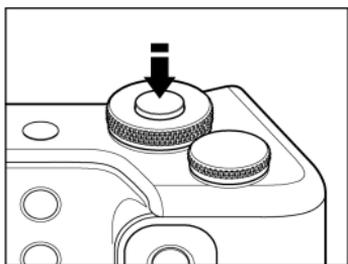
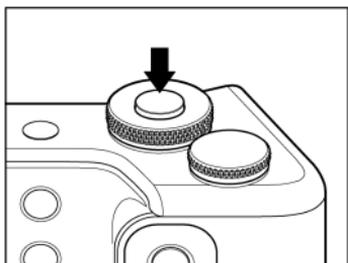
露出のモードを選びます (P.43)

まずは P (プログラムオートモード) にセットしましょう。



ピントを合わせます (P.48)

液晶モニターで構図を決めてシャッターボタンを半押しします。



撮影します

さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。



撮影した画像を確認します (P.41)

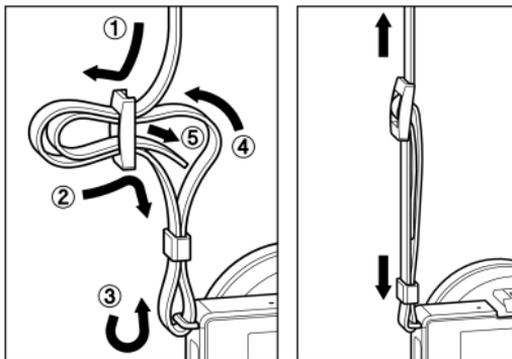
画像が2秒間表示されます。

カメラを使う準備をする

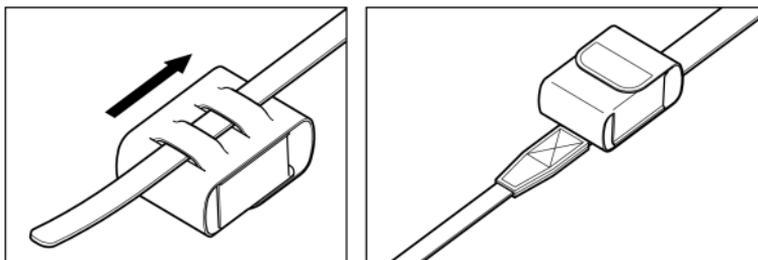
撮影をはじめる前に、必要な準備やチェックする項目について説明します。

ストラップの取り付け方

付属のストラップの両端を一旦ほどいて、図のように左右のストラップ取り付け金具に通して取り付けます。



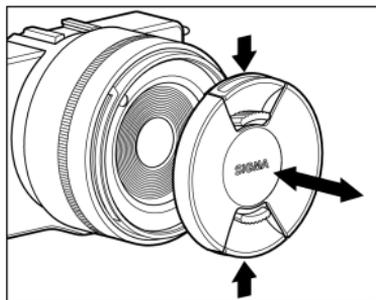
このストラップは、予備電池の持ち運びに便利な電池ケースを取り付けることができます。



ご注意 !!

- 電池、及び電池ケースは防水構造ではありません。水が掛らないように十分ご注意ください。

レンズキャップ



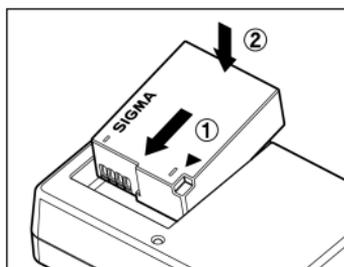
レンズを保護するためにレンズキャップが取り付けられています。カメラを使用しない場合はレンズキャップを取り付けて保管してください。

図のように、レンズキャップの取り付け、取り外しを行います。

電池を入れる

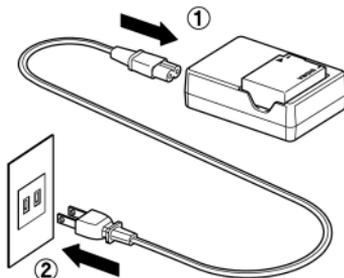
dp2 Quattro は、付属の専用リチウムイオン充電電池「バッテリーパック BP-51」を使用します。お買い上げ時に電池は充電されていません。付属の専用充電器「バッテリーチャージャー BC-51」で充電してからお使いください。

電池を充電する



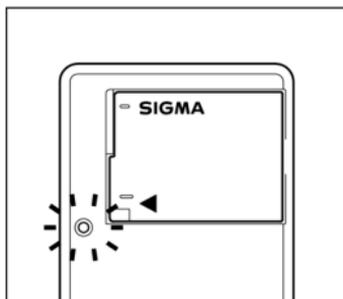
1

図のように、電池をスライドさせて充電器に取り付けます。



2

電源コードを充電器の電源ソケットとコンセントに差し込みます。



- 充電中は緑色の充電ランプが点灯します。
- 充電時間は約 140 分です。
- 充電時間は周囲の温度や、充電状態によって異なります。

3

充電ランプが消えたら充電完了です。
電池を外し、充電器をコンセントから外してください。

- 電池の充電は、なるべくご使用の直前にされることをおすすめします。日数がたちますと、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。
- 充電しても、撮影可能枚数が極端に少なくなった場合は、電池の寿命が考えられます。新しい充電地をお買い求めください。

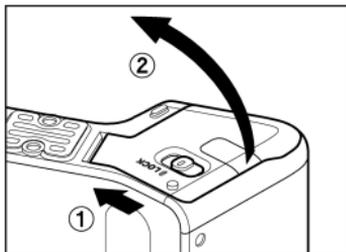
- この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。ご使用済の電池は貴重な資源となります。端子にテープを貼りつけて絶縁してからリサイクル協力店にお持ちください。

リサイクル協力店のお問い合わせ先は、
有限責任中間法人 JBRC

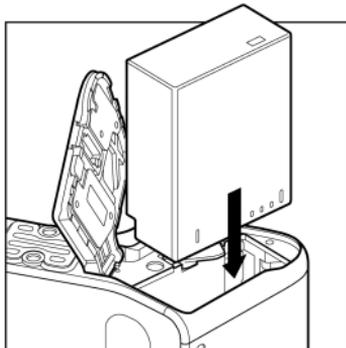
ホームページアドレス : <http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html>



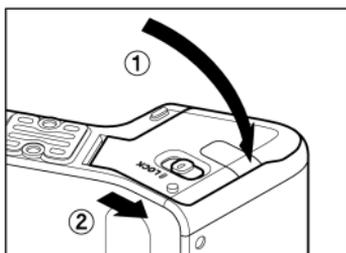
電池の入れ方



- 1**
図のように開閉レバーをスライドさせて、電池室ドアを開きます。



- 2**
電池がロックされるまで押し込んでください。



- 3**
図のように電池/カード室ドアを閉め、開閉レバーを LOCK 側にスライドさせてロックします。

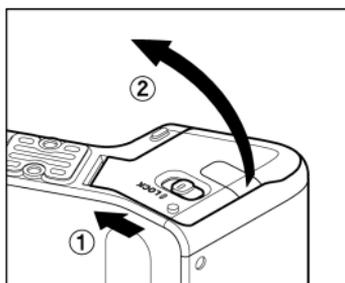
電池のチェック

液晶モニタの左上に電池の残量を示すアイコンが表示されます。カメラの使用前及び使用中は、常に電池アイコンをチェックするよう心がけてください。



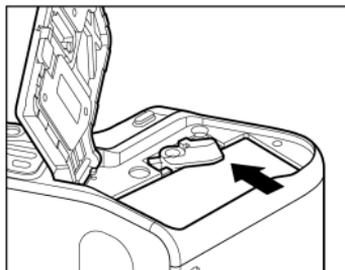
	電池の残量が殆どなく、まもなくカメラが作動しなくなります。満充電の電池と交換、または電池を充電してください。
	電池の残量がなく、カメラが作動しません。満充電の電池と交換、または電池を充電してください。
	AC アダプターを接続して、家庭用電源で作動しています。 (P.128 参照)

電池の取り外し方



1

電源が OFF になっているのを確認し、図のように開閉レバーを OPEN 側にスライドさせて、電池室ドアを開きます。



2

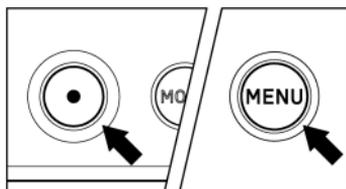
電池ロックレバーを図のようにスライドさせて、電池を取り出します。

警告 !!

- アクセランプが点灯または点滅している時は、絶対に電池やカードを取り出さないでください。書き込み中のデータが失われます。また、カードが損傷する場合があります。

言語の設定

液晶モニタに表示されるメニューやメッセージの言語は、英語が初期設定となっています。セットアップメニューの「Language / 言語」で日本語に設定を変更してください。



設定できる言語

English	英語（初期設定）
日本語	日本語
Deutsch	ドイツ語
Français	フランス語
Español	スペイン語
Italiano	イタリア語
简体中文	中国語（簡体字）
繁體中文	中国語（繁体字）
한국어	韓国語

Русский	ロシア語
Nederlands	オランダ語
Polski	ポーランド語
Português	ポルトガル語
Dansk	デンマーク語
Svenska	スウェーデン語
Norsk	ノルウェー語
Suomi	フィンランド語

1

カメラの電源を入れます。

2

本体背面の **MENU** ボタンを押してセットアップメニューを開きます。（P.27 参照）

3

前ダイヤルか後ダイヤルを回して「**カメラ設定(3)**」を選びます。

4

◀ ボタンを押して、「**Language / 言語**」を選びます。

5

▶ ボタンか **OK** ボタンを押して、言語設定画面を開きます。

6

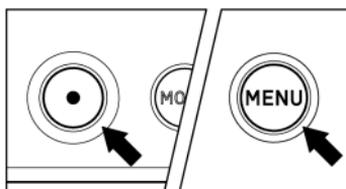
◀▶ ボタンで「**日本語**」を選びます。言語は 17 種から選べます。（次ページ参照）

7

確定する場合は、**OK** ボタンを、変更しない場合は、**MENU** ボタンを押します。

日付と時間の設定

初めて使用する場合、あるいは長期間使用していなかった場合は、日付と時間を正しく設定してください。



1

カメラの電源を入れます。

2

本体背面の **MENU** ボタンを押してセットアップメニューを開きます。(P.27 参照)



3

前ダイヤルが後ダイヤルを回して「**カメラ設定(3)**」を選びます。

4

◇ ボタンを押して、「**日付 / 時刻**」を選びます。

5

▶ ボタンか **OK** ボタンを押して、日付 / 時刻設定画面を開きます。

6

再度 ▶ ボタンか **OK** ボタンを押すと、日付 / 時刻が設定できます。



7

◀▶ ボタンで各項目を選び、◇ ボタンで設定します。

8

OK ボタンを押して確定します。変更しない場合は、**MENU** ボタンを押します。



ご注意 !!

- カメラの内蔵時計は、カメラ動作用電池から内蔵の充電電池に充電された電気で動いています。長期間カメラに電池が入っていない状態で、充電がされていない場合は、内蔵時計を再設定する必要があります。

年月日の順序を変えるには

日付表示は、年月日、月日年、日月年の3種類から選べます。



1

◇ ボタンで「日付設定」を選び、▶ ボタンか **OK** ボタンを押してサブメニューを開きます。

2

◇ ボタンで希望の表示順序を選び、▶ ボタンか **OK** ボタンを押して確定します。

24 時間表示 / 12 時間表示(AM/PM)を切り替えるには



1

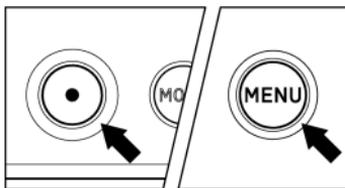
◇ ボタンで「時間設定」を選び、▶ ボタンか **OK** ボタンを押してサブメニューを開きます。

2

◇ ボタンで希望の表示方法を選び、▶ ボタンか **OK** ボタンを押して確定します。

セットアップメニュー

カメラ操作の基本となるセットアップメニューについて説明します。セットアップメニュー画面から、カメラのこまかい機能や、カメラの基本状態を設定することができます。



タブエリア



セットアップメニューを開く

本体背面の **MENU** ボタンを押します。

再度 **MENU** ボタンを押すと、セットアップメニューが閉じ撮影状態に戻ります。
(画像の再生中 (P.90) では、元の表示画像に戻ります)

他のページに移動する

前ダイヤルか後ダイヤルを回すごとに、隣のページに移動できます。

(タブエリアが選択されている時は、<> ボタンを押してもとなりのページに移動できます。)

セットアップメニューでは：

◇ ボタンを押して、希望の項目を選びます。

> ボタンか OK ボタンを押すと、サブメニューが開きます。

(項目によっては、専用画面が開いたり、確認メッセージが表示されるものがあります。)

サブメニューでは：

◇ ボタンを押して、希望のオプションを選びます。

> ボタンか OK ボタンで確定します。

(< ボタンを押すと、オプションが変更されずにサブメニューが閉じます。)

- セットアップメニューは以下の3つのグループに分類されています。



📷 撮影設定 (青いタブ)

撮影に関する機能を設定するメニューです。撮影モード時に **MENU** ボタンを押すと、「📷 撮影設定」メニューが開きます。



▶ 再生設定 (赤いタブ)

画像の再生に関する機能を設定するメニューです。DPOF 設定などプリントに関する設定も再生設定メニューに含まれます。画像の再生中に **MENU** ボタンを押すと、「▶ 再生設定」メニューが開きます。



🔧 カメラ設定 (黄色のタブ)

日付の設定や言語の選択など、カメラの基本状態を設定するメニューです。**MENU** ボタンを押してセットアップメニューを開き、前ダイヤルか後ダイヤルを回して「🔧 カメラ設定」メニューに移動します。

メモ

- カメラの状態によって、設定することができない項目やオプションは、グレーで表示されます。

メニューリスト

設定項目の詳細は、各該当ページをご覧ください。

撮影設定

	項目	設定内容	ページ
 (1)	ISO 感度	大きい数値ほど、感度が高くなります。 (ただし画像にノイズが増えることがあります。)	66
	ISO 感度ステップ	ISO 感度の設定ステップ幅を選択できます。	67
	オートブラケット	オートブラケット撮影の段数と順序を設定します。	75
	測光モード	被写体の状況に合わせ、3つの測光方式を選択できます。	72
	ドライブモード	セルフタイマーなどのカメラの動作モードを設定します。	56
	フラッシュ	フラッシュ撮影に関するモードの設定と調光補正の設定を行います。	85-88

	項目	設定内容	ページ
 (2)	ホワイトバランス	撮影時の光源の種類に応じて、ホワイトバランスのモードを選択します。	61
	白とび軽減	露出オーバー時の白とびを軽減する機能「白とび軽減」の有効、無効を設定します。	81
	トーンコントロール	自然な階調の画像が得られる機能「トーンコントロール」の有効（強・弱）、無効を設定します。	81
	画質	記録する画像の画質を設定します。	69
	画像サイズ	記録する画像のサイズ（記録画素数）の設定をします。	70
	アスペクト比	画像のアスペクト比（横縦比）を設定します。	70

📷 撮影設定（つづき）

	項目	設定内容	ページ
📷 (3)	カラーモード	各撮影シーンに最適な色調、コントラストなどを調整したカラーモードを選択できます。	78
	カラースペース	色空間の規格である「sRGB」か、「Adobe RGB」を選択します。	82
	縦位置情報記録	撮影時に縦位置撮影情報を画像ファイルに記録をするか、しないかを設定します。	82
	撮影画像確認	撮影後、液晶モニタに自動的に表示される確認画像の表示時間を設定します。	41

	項目	設定内容	ページ
📷 (4)	ダイヤル機能入換	各撮影モードでの露出設定・露出補正を行うダイヤルの割当てを設定します。	119
	操作方向の反転	ダイヤルとフォーカスリングの回転方向の反転をするか、しないかを設定します。	119
	AEL ボタンの機能	カメラ背面の AEL ボタンに割当てる機能の選択を行います。	73
	半押し AEL	シャッターボタンを半押しした際に、露出を固定するか、しないかを設定します。	74

	項目	設定内容	ページ
📷 (5)	AF 補助光	AF 撮影時に AF 補助光を発光するか、しないかを設定します。	49
	AF+MF	通常の AF モードか、マニュアルによる微調整が可能な AF+MF モードにするかを選択します。	50
	MF 自動拡大	MF 自動拡大から通常表示に戻るまでの時間を設定します。	56
	AF リミットモード	フォーカスモードボタンに AF リミットモードを追加するか、しないかを設定します。	51

📷 撮影設定（つづき）

	項目	設定内容	ページ
📷 (5)	速度優先 AF	通常の AF モードか、速度優先 AF モードにするかを選択します。	54
	顔優先 AF モード	通常の AF モードか、顔優先 AF モードにするかを選択します。	53

▶ 再生設定

	項目	設定内容	ページ
▶ (1)	ロック	ファイルのロック、もしくはロック解除を行います。	100
	マーク	画像ファイルのマーク、もしくはマーク解除を行います。	102
	回転	画像の表示方向の変更を行います。	104
	消去	ファイルの消去を行います。	98
	スライドショー	画像ファイルのスライドショー（連続自動再生）、およびスライドショーの詳細を設定します。	110
	DPOF	カード内のプリントしたい画像の指定や枚数を設定します。	112

	項目	設定内容	ページ
▶ (2)	露出警告	再生画像に露出オーバーの警告を表示するか、しないかを設定します。	106
	OK ボタンの機能	OK ボタンに割り当てる機能の設定をします。	107
	回転表示	縦位置情報が記録された画像を回転して表示するか、しないかを設定します。	—
	音声メモ	記録された画像に音声を付加できる「音声メモ機能」の有効、無効を設定します。	108

🔧 カメラ設定

	項目	設定内容	ページ
🔧 (1)	カスタムモードの登録	カスタムモード (C1・C2・C3) の登録を行います。	83
	QS カスタム	クイックセットメニューに割当てする項目を設定します。	35
	ディスプレイモード設定	4 つのディスプレイモードのオン/オフと、内容の詳細を設定します。	36
	MF スケールの単位	マニュアルフォーカス時に表示される MF スケールバーの単位を設定します。	55
	音声	各種電子音の有無や音量、動画・音声メモの再生音量を設定します。	122
	水準器調整	水準器の角度のずれを調整します。	118

	項目	設定内容	ページ
🔧 (2)	ファイル名	撮影画像のファイル名を設定します。	115
	ファイル番号	新しいカードをカメラに入れたとき、もしくはカードを初期化した後などの、ファイル番号の付き方を設定します。	114
	ECO モード	電池の消費を抑える ECO モードにするか、しないかを設定します。	121
	LCD の明るさ	液晶モニタのバックライトの明るさを設定します。(画像ファイル自体には影響しません。)	—
	LCD オフ	操作をしない時に、自動的に液晶のバックライトが消灯するまでの時間を設定します。	120
	オートパワーオフ	操作をしない時に、自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	120

カメラ設定 (つづき)

	項目	設定内容	ページ
 (3)	カードなしリリース	カメラにカードが入っていない状態でシャッターボタンを押した時に、シャッターが切れるか、切れないかの設定をします。	40
	カードの初期化	カードを初期化します。(カード内のすべてのファイルが消去されます。)	39
	日付 / 時刻	画像ファイルに記録される日付と時間を設定します。	25
	言語 / Language	メニューやメッセージで表示される言語を選択します。	24

	項目	設定内容	ページ
 (4)	情報	カメラのファームウェアバージョン、モデル名、シリアル番号の情報と、認証マーク※ を表示します。	—
	ファームウェアの更新	カードから最新ファームウェアのアップデートを行います。	—
	設定のリセット	各設定を初期設定に戻します。	123

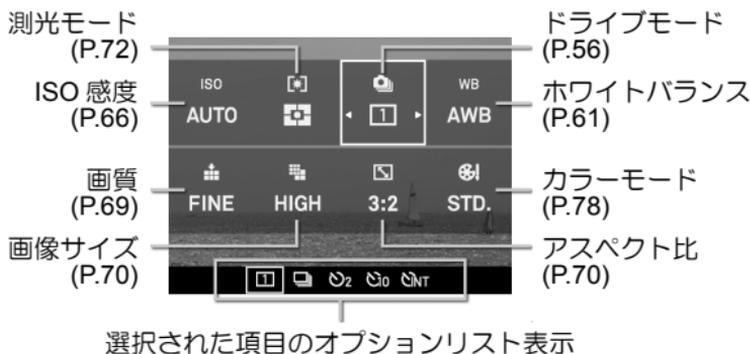
※ 認証マークについて

このカメラが対応しているその他の認証マークは、カメラ底面、化粧箱、使用説明書等に表示されています。

クイックセットメニュー

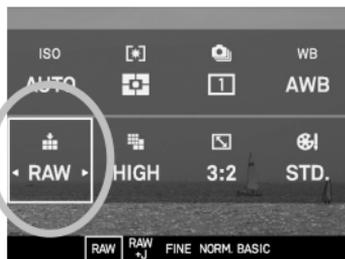
撮影時に頻繁に使う以下の項目は、**QS** ボタンを押すことにより、簡単に設定することができます。

クイックセットメニュー画面（初期設定）



撮影モード中に **QS** ボタンを押すと、クイックセットメニュー画面が表示されます。

例えば、画質を RAW に変更したい場合



1

QS ボタンを押して、クイックセットメニューを表示させます。

2

◀▶ ボタンを押して、画質の項目（**画質**）を選びます。

3

前ダイヤルか後ダイヤルを回して「**RAW**」を表示させます。

4

OK ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しして、撮影状態に戻ります。

ご注意 !!

- 設定できない項目はグレーで表示され、ダイヤルを回してもオプションを変更できません。

クイックセットメニューに割り当てる項目を変更することができます。

割り当てできる項目は以下の通りです。

ISO 感度 (P.66)	アスペクト比 (P.70)
測光モード (P.72)	カラーモード (P.78)
ドライブモード (P.56)	撮影モード (P.43)
ホワイトバランス (P.61)	オートブラケットずらし量 (P.75)
画質 (P.69)	フラッシュモード (P.86)
画像サイズ (P.70)	調光補正 (P.88)

「 **カメラ設定**」(P.27) → 「**QS カスタム設定**」より、メニューに割り当てる項目を設定してください。



1

「**QS カスタム設定**」画面で  ボタンを押して、割り当てを変更したいポジションを選び、**OK** ボタンを押して確定します。

2

画面下側のリストから、割り当てたい項目を  ボタンを押して選び、**OK** ボタンを押して確定します。

3

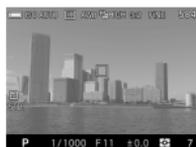
一通り割り当てたい項目の設定が完了したら、**MENU** ボタンを押して、「**QS カスタム設定**」画面を閉じます。

液晶モニタの表示を切り替える

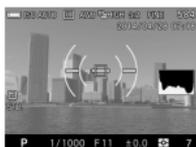


□ボタンを押すと、液晶モニタの表示を切り替えることができます。

撮影時



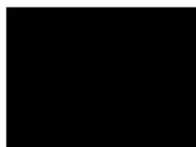
ディスプレイ
モード 1



ディスプレイ
モード 2



ビューファインダー
モード



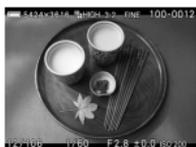
LCD オフモード

- 各アイコンの意味は P.14「液晶モニタの表示」を参照してください。
- ビューファインダーモードは、撮影情報のみを表示します。別売りのビューファインダーを使用の際に便利な表示モードです。
- ディスプレイモード 1 とディスプレイモード 2 は、表示させたい情報をカスタマイズすることができます (P.116 参照)。
- ビューファインダーモードと LCD オフモードは操作時に表示されるアイコンサイズを変更することができます (P.116 参照)。

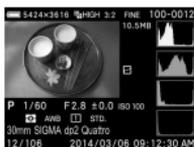
再生時



アイコン表示
(撮影日時表示)
(P.91)



アイコン表示
(撮影データ表示)
(P.91)



画像情報表示
(P.94)

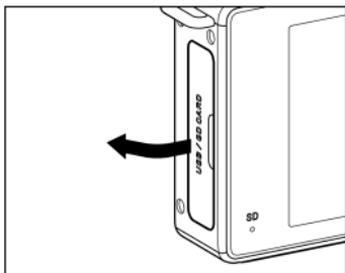


アイコン非表示

カードの入れ方と取り出し方

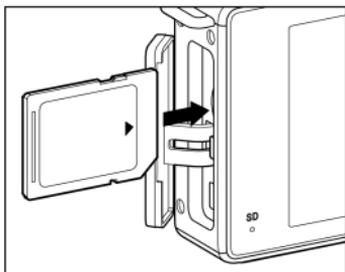
dp2 Quattro は、データの記録にメモリーカードが必要です。使用できるメモリーカードは SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカードです。

カードの入れ方



1

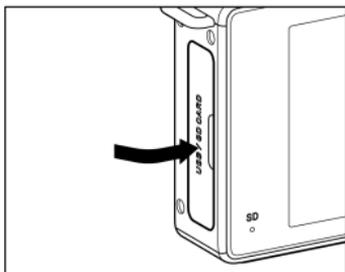
電源が OFF になっているのを確認し、図のようにカード/USB カバーを開きます。



2

カード/USB 室内の表示に従ってカードを入れます。

カチッと音がするまでカードを押し込んでください。



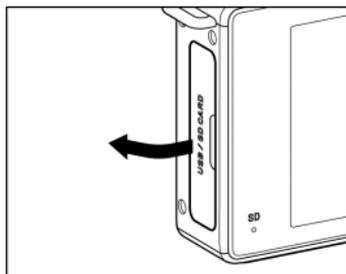
3

カード/USB カバーを閉じます。

メモ

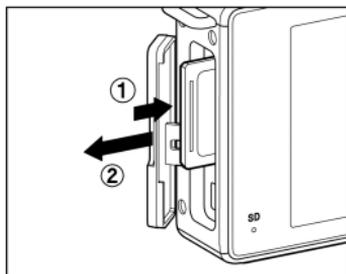
- 必要に応じて使用前にカードを初期化してください。（P.39 参照）

カードの取り出し方



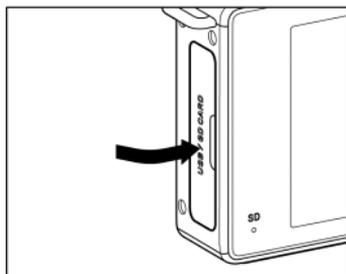
1

電源が OFF になっているのを確認し、図のようにカード/ USB カバーを開きます。



2

カードをカチッと音がするまで押し込み、まっすぐ引き抜いてください。



3

カード/ USB カバーを閉じます。

警告 !!

- アクセランプが点灯または点滅している時は、絶対に電池やカードを取り出さないでください。書き込み中のデータが失われます。また、カードが損傷する場合があります。

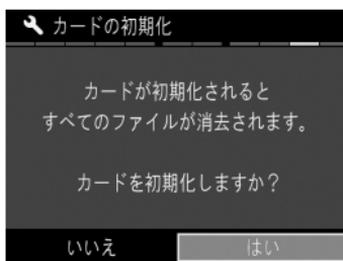
メモ

- 電源を OFF にしても、カードへのアクセスが終了するまでは、アクセスランプが点灯し、電源が切れません。

カードの初期化

新しいカードは使用する前に初期化しなければなりません。また、他のファイルフォーマットで初期化されている場合や、データが壊れていたり、カードに異常がある場合も使用前に初期化する必要があります。

「 カメラ設定」(P.27) → 「カードの初期化」より初期化を行います。



「カードの初期化」画面で <> ボタンを押し、「はい」を選び  ボタンを押します。

初期化を中止したい場合は <> ボタンを押して「いいえ」を選び  ボタンを押します。

警告!!

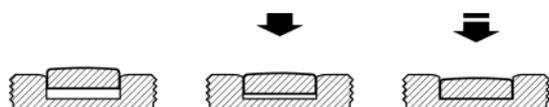
- 初期化はロックされた画像とそれ以外のファイルもすべて消去します。

メモ

- 他のカメラや機器でカードを初期化すると、dp2 Quattro で正常に動作しなかったり、容量が少なくなることがあります。画像を最大限記録するには、使用前に dp2 Quattro で初期化してください。

シャッターボタンの押し方

シャッターボタンは2段階になっています。



軽く押しで止まるところが1段階で、カメラが撮影状態になり、ピントの機構が作動します。この状態までシャッターボタンを押すことを“半押し”と言います。半押しの状態からさらに押し込むとシャッターが切れます。

メモ

- 撮影をする前に、何回かシャッターを切って“半押し”の感覚をつかむと共に、カメラに慣れるように各部を操作して練習することをおすすめします。
- 通常、カメラにカードが入っていない時に、シャッターボタンを押してもシャッターが切れませんが、シャッターが切れるように変更できます。
「 カメラ設定」(P.27) → 「カードなしリリース」の項目より設定します。

禁止 (初期設定)	カメラにカードが入っていない時は、シャッターが切れません。
許可	カメラにカードが入っていない時でも、シャッターが切れます。

撮影した画像を確認する



dp2 Quattro では、撮影後すぐに液晶モニタに画像を自動的に表示させることができます。この機能は、露出や構図を即座にチェックするのに役立ちます。

撮影画像確認時間の設定

撮影直後の画像を液晶モニタに表示させる時間を設定します。

「 撮影設定」(P.27) → 「撮影画像確認」より設定します。

撮影画像確認時間設定項目

切	表示しません
2 秒 (初期設定)	2 秒間表示します。
5 秒	5 秒間表示します。
10 秒	10 秒間表示します。

メモ

- 手で撮影画像確認画面の表示を消す場合は、シャッターボタンを半押ししてください。

ご注意 !!

- 撮影画像確認画面では、拡大表示、他の画像への切りかえはできません。

基本撮影

実際に撮影する上での基本的な操作を説明します。

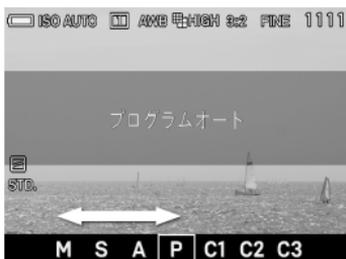
露出のモードを選ぶ

露出を決める4つのモードの特徴と操作方法を説明します。

ご注意 !!

- 本章では「📷 撮影設定」(P.27)メニューの「機能入換」が、初期設定の状態を前提に説明しています。説明文と実際の操作方法が異なる場合は、P.119「ダイヤル機能入換」をご覧ください。

露出モードの選び方



1

MODE ボタンを押します。

(画面下端の露出表示部が、モード選択表示に変わります)

2

前後ダイヤル、もしくは **<>** ボタンを押して、希望の露出モードを選びます。

3

OK ボタンを押す、もしくはシャッターボタンを半押しして撮影状態に戻ります。

P プログラムオート

気軽な撮影にはこのモードを選びます。被写体の明るさに応じて、カメラが最適なシャッター速度と絞りを決めてくれます。



1

露出モードを **P** にセットします。
(露出表示が緑色で表示されます。)

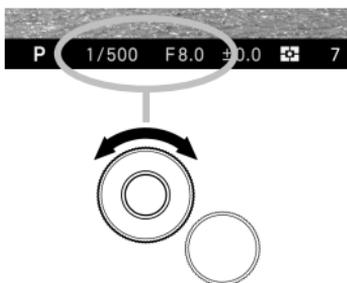
2

シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ撮影します。

ご注意 !!

- シャッター速度が 1/50 秒より遅い場合、液晶モニタに (📷) マークが点灯し、手ぶれをおこしやすい状態になっていることを警告します。フラッシュ撮影 (P.85) を行うか、三脚等に固定して撮影してください。
- 明るすぎたり暗すぎた場合、シャッター速度と絞り表示が点滅して警告します。そのまま撮影すると露出が合いません。

プログラムシフト

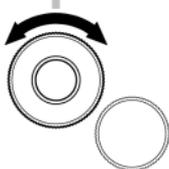


カメラが選んだシャッター速度と絞りの組み合わせを同じ露出を保ったままを変更することができます。希望するシャッター速度と絞りの組み合わせの表示ができるまで、前ダイヤルを回してください。

撮影後は自動的に解除されます。

A 絞り優先オート

希望の絞りをセットし、被写体の明るさに応じてカメラが最適なシャッター速度を決めてくれます。絞り込んでピントの合う範囲を広げたり、絞りを開けて背景をぼかすなど、絞りの効果を生かした撮影ができます。



1

露出モードを **A** にセットします。
(絞りが緑色で表示されます。)

2

前ダイヤルを回して希望の絞りを設定します。
(絞りは F2.8~F16 (1/3 段ステップ) の範囲で設定できます。)

3

シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ撮影します。

- 設定する絞り値によって、制御されるシャッター速度の範囲が以下のように制限されます。

絞り	シャッター速度
F2.8 ~ F3.5	30s ~ 1/1250s
F4.0 ~ F5.0	30s ~ 1/1600s
F5.6 ~ F16	30s ~ 1/2000s

ご注意 !!

- シャッター速度が 1/50 秒より遅い場合、液晶モニタに (📷) マークが点灯し、手ぶれをおこしやすい状態になっていることを警告します。フラッシュ撮影 (P.85) を行うか、三脚等に固定して撮影してください。
- 明るすぎたり暗すぎた場合、シャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎる場合は絞り込み (数字を大きく)、暗すぎる場合は絞りを開けて (数字を小さく)、点滅が消えるように調整してください。

S シャッター速度優先オート

希望のシャッター速度をセットし、被写体の明るさに応じてカメラが最適な絞りを決めてくれます。高速シャッターで動きを止めたり、低速シャッターで動きを表現するなど、シャッター速度の効果を生かした撮影ができます。



1

露出モードを**S**にセットします。
(シャッター速度値が緑色で表示されます。)

2

前ダイヤルを回して希望のシャッター速度を設定します。
(シャッター速度は30秒～1/2000秒(1/3段ステップ)の範囲で設定できます。)

3

シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ撮影します。

- 設定するシャッター速度によって、制御される絞りの範囲が以下のように制限されます。

シャッター速度	絞り
30s ~ 1/1250s	F2.8 ~ F16
1/1600s	F4.0 ~ F16
1/2000s	F5.6 ~ F16

ご注意 !!

- 明るすぎたり暗すぎた場合、絞り表示が点滅して警告します。明るすぎる場合はシャッター速度を速くし、暗すぎる場合はシャッター速度を遅くして、点滅が消えるように調整してください。

M マニュアル露出

自分で希望のシャッター速度と絞りをセットします。カメラの露出メーターの数値に基づいて、わざと露出をずらして表現に工夫を加えたり、市販の外部露出計を利用して露出を決める場合などに使用します。



1

露出モードを**M**にセットします。
(シャッター速度値がオレンジ色、絞り値が緑色で表示されます。)

2

前ダイヤルを回して希望の絞りを設定します。

3

露出メーターの数値が ± 0.0 になるように、後ダイヤルを回してシャッター速度を設定します。

露出メーターの表示は1/3段ステップで ± 3 段まで表示されます。表示範囲を超えた場合、露出メーターの数字が点滅表示されます。

4

シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ撮影します。

- 設定できるシャッター速度と絞りの組合せは、以下の表のようになります。

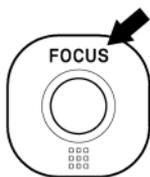
シャッター速度	絞り
30s ~ 1/1250s	F2.8 ~ F16
1/1600s	F4.0 ~ F16
1/2000s	F5.6 ~ F16

- シャッター速度を変更したときに、使用できない絞り値になった場合は、自動的に使用可能な絞り値に変更されます。
- 絞り値を変更したときに、使用できないシャッター速度になった場合は、自動的に使用可能なシャッター速度に変更されます。

ピントを合わせる

オートフォーカスの設定方法や、手動でのピント合わせについて説明します。

フォーカスモードを選ぶ



FOCUS ボタンを押すたびに、AF モード（アイコンなし）と MF モード（**MF** アイコン）が切り替わります。

オートフォーカスによるピント合わせ

ISO AUTO AWB HIGH 3:2 FINE 1109



画面中央に被写体をいれてシャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うとフォーカスフレームが緑色に変わります。（同時にフォーカスランプが緑色に点灯します）

- ピントが合わない場合、フォーカスフレームが点滅して警告します。（同時にフォーカスランプが赤色で点滅します）
- ピントの合う範囲は無限遠から 28cm です。

オートフォーカスは、次のような被写体にはピントが合わない場合があります。

- 白い壁など、コントラストのない被写体
- 画面の中央に強い光源がある場合
- 動きが速い場合
- フォーカスフレーム内に近くと遠くのものが入っている場合

ピントが合わない時は、ほぼ同距離にある被写体でフォーカスロック撮影をするか、マニュアル（手動）でのピント合わせを行ってください。

AF 補助光について

dp2 Quattro は、AF 補助光を内蔵していますので、暗い場所でもオートフォーカス撮影が可能です。

- AF 補助光が有効な距離は、約 3m です。
- AF 補助光の照射を禁止することができます。「 撮影設定」(P.27) → 「AF 補助光」 → 「切」に設定してください。

フォーカスフレームの設定

dp2 Quattro は、9個のフォーカスフレームから選択する「9点選択モード」と、フォーカスフレームを任意の位置に細かく移動できる「自由移動モード」を備えています。また、フォーカスフレームの大きさをピンポイント、通常、大の3種類から選択することができます。

9点選択モード



自由移動モード



フォーカスフレーム移動エリア

設定方法：

 ボタンを押します。

- AEL ボタンを押すたびに、「9点選択モード」と「自由移動モード」が切り替わります。
- 「9点選択モード」時は、 ボタンで任意のフォーカスフレームを選びます。
- 「自由移動モード」時は、 ボタンで任意の位置にフォーカスフレームを移動します（フォーカスフレーム移動エリアの範囲内で移動できます）。
- 前ダイヤルか後ダイヤルを回すと、フォーカスフレームのサイズを変更できます。

 ボタンを押して確定します。

フォーカスロック撮影

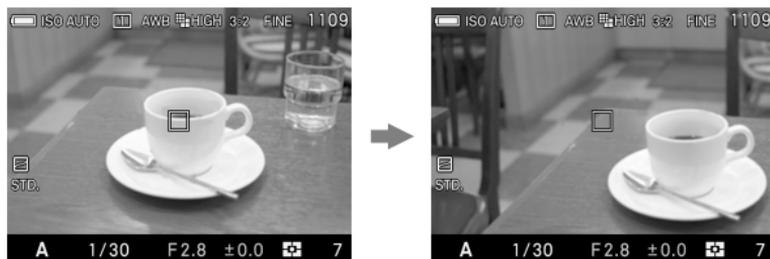
被写体がフォーカスフレームに入らない場合の撮影方法です。

1

フォーカスフレームに被写体を入れてシャッターボタンを半押しし、ピントを合わせます。

2

ピントが合い、フォーカスフレームが緑色になったら、シャッターボタンを半押ししたまま、構図を決めて撮影します。



AF+MFモード

オートフォーカスでピントを合わせた後、マニュアルでピントの微調整を行うことができます。

1

「**撮影設定**」(P.27) → 「**AF+MF**」 → 「**入**」を選びます。(通常のAFモードが、AF+MFモードに切り替わります。)



2

FOCUS ボタンを押して、AF+MFモード (**AF+MF** アイコン) を選びます。

3

シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

4

シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを少し回すと、拡大表示になります。そのままフォーカスリングを回して、ピントの微調整を行ってください。

5

フォーカスリングの回転を止めてから、約1秒で通常表示に戻りますので、構図を整えて撮影します。

- 通常の AF モードに戻したい場合は、手順 **1** で「切」を選択してください。
- 拡大表示は、液晶モニタに表示されているフォーカスフレームを中心として拡大されます。フォーカスフレームの変更は、P.49 の「フォーカスフレームの設定」を参照してください。

ご注意 !!

- 顔優先 AF モードが設定されている時は、AF+MF モードにセットすることができません。

AFリミットモード

dp2 Quattro は、ピントの合う範囲を制限しピントの合うスピードを速くする、AF リミットモードを備えています。撮影目的に合わせ、4つのモードから選択することができます。



1

「**撮影設定**」(P.27) → 「**AF リミットモード**」 → 「**入**」を選択します。(フォーカスモードに AF リミットモードが追加されます。)

2

FOCUS ボタンを押して、AF リミットモード (人物のアイコン) を選びます。

(画面下端の露出表示部が、AF リミットモード選択表示に変わり、AF リミットモードアイコンとスケールバーが表示されます)

3

前後ダイヤル、もしくは **<>** ボタンを押して、希望の AF リミットモードを選びます。

	モード	ピントの合う範囲
	マクロ	約 0.28m ~ 1.0m (約 0.92ft ~ 3.3ft)
	ポートレート	約 0.5m ~ 2m (約 1.6ft ~ 6.5ft)
	風景・スナップ (初期設定)	約 0.5m ~ ∞ (約 1.6ft ~ ∞)
	カスタム	任意に設定できます。(次項目参照)

4

OK ボタンを押すかシャッターボタンを半押しして、撮影状態に戻ります。

カスタムモードの登録

AF リミットモードのカスタム (**C**) に、ピントの合う範囲を任意に設定し、登録することができます。

1

「**撮影設定**」(P.27) → 「**AF リミットモード**」 → 「**入**」を選び、**>** ボタンを押して、AF リミットモードのカスタムの設定画面を表示させます。



2

◇ ボタンで **◇** か **◆** アイコンを選び、スケールバーの表示を見ながら **<>** ボタンで希望のピントの合う範囲を設定します。

- 設定できる近距離側および遠距離側の値は、以下の 6 ポイントから選択できます。

0.28m / 0.92ft	0.35m / 1.1ft	0.5m / 1.6ft
1m / 3.3ft	2m / 6.5ft	∞

3

確定する場合は **OK** ボタンを、変更しない場合は **MENU** ボタンを押してください。

顔優先AFモード

dp2 Quattro は、人物の顔を検出した際に優先的にピント合わせを行う、顔優先 AF モードを備えています。

「 撮影設定」(P.27) → 「**顔優先 AF**」 → 「入」を選びます。(通常の AF モードが、顔優先 AF モードに切り替わります。)



OFF



ON

または  ボタンを押し、 ボタンを押すと顔優先 AF モードの ON/OFF の切り替えができます。



画面内に顔が検出されると、オレンジ色の顔検出フレームが表示されます。

シャッターボタンを半押しし、検出された顔にピントが合うと、顔検出フレームが緑色に変わります。

- 顔優先 AF モードでは、検出した顔に重点を置いた評価測光に切り替わります。
- 顔検出機能は画面内の最大8人までの顔を検出し、一番近い位置と思われる顔を優先し顔検出フレームを表示します。

ご注意 !!

- MF モードが選択されている時は、顔優先モードにセットすることができません。
- 以下の状況では、顔の検出ができない場合があります。
 - ・ サングラスや帽子などで顔の一部がさえぎられている場合。
 - ・ 顔の向きが正面ではない場合。
 - ・ ピントが大きすぎる場合。
 - ・ 被写体までの距離が遠い、または近すぎる場合。
- 顔の検出ができない場合は、選択されているフォーカスフレームでピントを合わせます。

- 通常の AF モードに戻したい場合は、「 撮影設定」(P.27) → 「顔優先 AF モード」 → 「切」を選択してください。

速度優先AF

dp2 Quattro は、オートフォーカス動作中のライブビューを停止させ、より高速なオートフォーカスを可能にする、速度優先 AF 機能を備えています。

「 撮影設定」(P.27) → 「速度優先 AF」 → 「入」を選びます。(通常の AF モードが、速度優先 AF モードに切り替わります。)

ご注意 !!

- オートフォーカス動作中は、ライブビューを停止させるため、シャッターボタンを半押ししてからオートフォーカスの動作が終了するまで、静止画像が表示されます。
- 通常の AF モードに戻したい場合は、「 撮影設定」(P.27) → 「速度優先 AF」 → 「切」を選択してください。

マニュアル(手動)でのピント合わせ

オートフォーカスが苦手な被写体や、フォーカスロックが行えない場合、マニュアルでピントを合わせてください。



1

FOCUS ボタンを押して、MF モードにします。(液晶モニタに **MF** アイコンとスケールバーが表示されます。)

2

フォーカスリングを左右に回し、ピントを合わせたい部分がハッキリ見える位置にあわせませす。



スケールバーの指標両脇の緑の領域は、被写界深度（ピントの合って見える範囲）を示しています。被写界深度は絞りを開けるほど浅く（ピントの合って見える範囲が狭い）なり、絞るほど深くなる（ピントの合って見える範囲が広くなる）性質をもっています。

ご注意!!

- スケールバーのピント位置表示、および被写界深度は、実際の距離とは異なる場合があります。あくまでも目安としてお使いください。

メモ

- スケールバーの目盛の単位を変更することができます。「 カメラ設定」（P.27）→「MF スケールの単位」より、M（メートル）、FEET（フィート）のいずれかを選択してください。

拡大表示によるピント合わせ

MF モード時に **OK** ボタンを押すと拡大表示になり、ピントが合わせやすくなります。再度 **OK** ボタンを押すと通常表示に戻ります。

- 拡大表示中は液晶モニタに  アイコンが表示されます。シャッターボタンを半押しすると、拡大表示が一時的に解除されます。
- 拡大表示は、液晶モニタに表示されているフォーカスフレームを中心として拡大されます。フォーカスフレームの変更は、P.49 の「フォーカスフレームの設定」を参照してください。
- 拡大表示中に前ダイヤルか後ダイヤルを回すと、拡大率を変更することができます。（通常は 8 倍ですが、4 倍に変更できます。）

MF 自動拡大

シャッターボタンの半押し中に、フォーカスリングを回すことによっても、拡大表示にすることができます。

- フォーカスリングの回転を止めてから、約 1 秒で通常表示に戻ります。

- 通常表示に戻る時間を変更、またはフォーカスリングを回しても拡大させないことができます。「 撮影設定」(P.27) → 「MF 自動拡大」より設定してください。

切	拡大表示しません。
1 秒 (初期設定)	1 秒で通常表示に戻ります。
2 秒	2 秒で通常表示に戻ります。
5 秒	5 秒で通常表示に戻ります。

ドライブモードを選ぶ

セルフタイマーや連写などの、カメラの動作モードを説明します。



クイックセットメニュー (P.34)、もしくは「 撮影設定」(P.27) → 「ドライブモード」より設定します。

	1 コマ撮影 (初期設定)
	連続撮影
	セルフタイマー2 秒
	セルフタイマー10 秒
	インターバルタイマー

1 コマ撮影

シャッターを押して撮影が終了すると1コマ分撮影され、次の撮影のスタンバイ状態になります。通常は1コマ撮影にセットしてください。

連続撮影

シャッターを押し続けている間、連続撮影ができます。

ご注意!!

- 連続撮影された画像データは、一旦カメラ内蔵のバッファースタックに書き込まれます。バッファースタックに空き容量がなくなると、それ以上はシャッターが切れなくなります。カメラ内での画像処理が進行し、空き容量ができた時点で次の撮影が可能になります。



液晶モニター右下の数字はバッファ残量を示しています。連続して撮影できる最大枚数が表示されます。(連続撮影可能枚数が9枚を超える場合は9から変化しません。)

- 連続撮影時の最大撮影コマ数と速度は、おおむね以下のようになります。

		画像サイズ		
		■S-HI	■HIGH	■LOW
画 質	JPEG	7	7	12
		3.7	3.7	4.5
	RAW	/	7	12
		/	3.7	4.5
	RAW+JPEG	/	7	12
		/	3.7	4.5

上段は最大撮影コマ数、下段は最大撮影速度 (コマ / 秒) です。

セルフタイマー撮影

記念撮影で撮影者も一緒に写りたい場合や、カメラブレを防ぐ目的で使うことができます。

セルフタイマー2秒

シャッターボタンを押してから約2秒後にシャッターが切れます。

セルフタイマー10秒

シャッターボタンを押してから約10秒後にシャッターが切れます。

構図を決め、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。さらにシャッターボタンを押し込むとセルフタイマーが作動します。作動中は電子音が鳴り、2秒前になると電子音が速くなり知らせます。

- 「 カメラ設定」(P.27) → 「音声」 → 「操作音」の設定が「切」に設定されていると、セルフタイマー動作時にも音が鳴りません。
- セルフタイマーを作動中に解除をしたい場合は、電源スイッチをOFFにしてください。

インターバルタイマー撮影

一定の時間間隔で、自動撮影を行うことができます。

1

「 撮影設定」(P.27) → 「ドライブモード」 → 「インターバルタイマー」を選び、 ボタンを押してインターバルタイマー設定画面を表示させます。(「インターバルタイマー」を選んだ後に、 ボタンを押すと、前回の設定値がセットされます。)

クイックセットメニュー (P.34) からセットする場合は、「 INT」を選び、 ボタンを押してインターバルタイマー設定画面を表示させます。(「 INT」を選んだ後に、 ボタンを押すかシャッターボタンを半押しすると、前回の設定値がセットされます。)



2

 ボタンで、撮影間隔と撮影回数を設定します。

(撮影間隔は15秒～60分の間で設定できます。撮影回数は2～99回、および制限無し(∞)が設定できます。)

3

 ボタンで設定を確定し、 ボタンを押して撮影状態に戻ります。

4

シャッターボタンを押して、インターバルタイマー撮影を開始します。

- 撮影が開始されると、次のコマが撮影されるまでの時間と、残り枚数が表示されます。
- インターバルタイマー動作中は、フォーカスランプが緑色で点滅します。
- オートフォーカスで撮影の場合、2 枚目以降も最初の撮影で AF ロックされたピント位置で撮影されます。
- マニュアルフォーカスで撮影の場合、2 枚目以降もフォーカスリングによるピント位置の変更が可能です。
(2 枚目以降は、拡大表示によるピント合わせはできません。)
(2 枚目以降、ピント位置をずらしたくない場合は、フォーカスリングを回さないようご注意ください。)
- 露出は撮影のたびに再測光されます。2 枚目以降も 1 枚目と同じ露出で撮影したい場合は、M モード、もしくは AE ロックボタンにより露出を固定して撮影してください。
- 撮影途中でインターバルタイマーを中止する場合は、シャッターボタンを押します。
- インターバルタイマー撮影とオートブラケット撮影は併用できません。

ご注意 !!

- インターバルタイマー撮影は、電池残量により途中で電池切れとなり、撮影が中断することがあります。AC アダプター SAC-6 (別売) のご使用をおすすめします。
- インターバルタイマーは、撮影後も解除されずに繰り返し行われます。機能を解除するには、「ドライブモード」で他のモードに切り替えてください。
- 設定条件によっては画像処理に時間がかかり、設定した時間よりも長いインターバルになることがあります。

応用撮影

“写真の表現に工夫を加えたい” そんな時に応えてくれる機能の説明をします。

ホワイトバランスの設定 (WB)

人間の目は、照明の種類が変わっても、白いものは白く見えるように自動的に調整する能力をもっています。フィルムカメラの場合は、フィルターで調整したり、使用する光源に適したフィルムを選択して対処します。デジタルカメラは、人間の目のような調整能力をソフトウェアでおこなうことができます。この調整をホワイトバランスと言います。自動的にホワイトバランスを調整する機能をオートホワイトバランスと言います。

- 通常、ホワイトバランスは、初期設定の「オート」(AWB)により自動調整されますが、撮影した画像が思い通りの色にならない場合は、マニュアルでセットすることもできます。
- マニュアルでセットする場合は、照明の種類が明らかになっている必要があります。
- マニュアルでセットできる光源の種類は、次ページの表のとおりです。
- 次ページの表内の「カスタム」とは、実際の照明下で撮影し、取り込んだ画像を基準としてホワイトバランスを調整する、カスタムホワイトバランスモードです。(P.65 参照)



- マニュアルでセットできるホワイトバランスには、以下のモードがあります。

	モード	色温度	内 容
AWB	オート (初期設定)	—	カメラが自動的に最適なホワイトバランスを決定します。通常はこのモードにセットしてください。
AWB 	オート (色残し)	—	光源の色味を残し、その場の雰囲気を残した調整が行われます。
	晴れ	約 5400K	晴天の屋外で撮影するときに選びます。
	日陰	約 8000K	晴天の屋外の日陰などで撮影するときに選びます。
	くもり	約 6500K	曇天の屋外などで撮影するときに選びます。
	白熱電球	約 3000K	白熱電球の照明下で撮影するときに選びます。
	蛍光灯	約 4100K	白色蛍光灯下で撮影するときに選びます。
	フラッシュ	約 7000K	エレクトロニックフラッシュ EF-140S SA-STTL を使用して撮影するときに選びます。
	色温度設定	—	色温度を数値で設定し、ホワイトバランスを調整します。
	カスタム	—	実際に取り込んだ画像を基準とし、ホワイトバランスが設定されます。 (P.65)

クイックセットメニュー (P.34)、もしくは「 撮影設定」(P.27) → 「ホワイトバランス」より設定します。

ホワイトバランスの微調整

各ホワイトバランスモードに対し、微調整することができます。

1

「 撮影設定」(P.27) → 「ホワイトバランス」で好みのホワイトバランスモードを選び、 ボタンを押してホワイトバランス微調整画面を表示させます。

クイックセットメニュー (P.34) からセットする場合は、好みのホワイトバランスモードを選び、 ボタンを押してホワイトバランス微調整画面を表示させます。



2

 ボタンを押して調整します。

- B はブルー、A はアンバー、M はマゼンタ、G はグリーンを表し、移動方向に寄った色に微調整されます。
- 各方向に8段まで微調整できます。

3

確定する場合は  ボタンを、変更しない場合は **MENU** ボタンを押してください。

- リセットしたい場合は  ボタンを押してください。



ホワイトバランスを微調整すると、ホワイトバランスアイコンの下に調整値が表示されます。

色温度の数値設定

色温度を数値で設定し、ホワイトバランスを調整することができます。

1

「**📷 撮影設定**」(P.27) → 「**ホワイトバランス**」 → 「**色温度指定 **K****」を選び、**➤** ボタンを押して色温度指定画面を表示させます。(「**色温度指定 **K****」を選んだ後に、**OK** ボタンを押すと、前回設定した数値で撮影されます。)

クイックセットメニュー (P.34) からセットする場合は、「**K**」を選び、**□** ボタンを押して色温度指定画面を表示させます。(「**K**」を選んだ後に、**OK** ボタンを押すかシャッターボタンを半押しすると、前回設定した数値で撮影されます。)



2

◇ ボタンを押して数値を設定します。

3

確定する場合は **OK** ボタンを、変更しない場合は **MENU** ボタンを押してください。

色温度指定時もホワイトバランスの微調整をすることができます。

1

色温度指定画面で **➤** ボタンを押すと、ホワイトバランス微調整画面が表示されます。

2

そのあとは前ページの「**ホワイトバランス微調整**」の手順 2 より設定してください。

メモ

- 光源には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、光の色を絶対温度（K:ケルビン）で表したものを「色温度」と呼んでいます。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光となり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光となります。光源のおおよその色温度は 62 ページの表をご参照ください。

カスタムホワイトバランスの設定

カスタムホワイトバランスは、実際に取り込んだ画像を基準として、ホワイトバランスを設定する方法です。

1

「 撮影設定」(P.27) → 「ホワイトバランス」 → 「カスタム 

▶ ボタンを押してカスタムホワイトバランス取り込み画面を表示させます。
（「カスタム 

クイックセットメニュー（P.34）からセットする場合は、「

▶ ボタンを押して、カスタムホワイトバランス取り込み画面を表示させます。
（「

2

実際に撮影を行いたい照明下で、基準にしたい白い被写体（白い紙や、白い壁など）を画面中央の枠に入れてシャッターボタンを押します。

取り込みがうまくいった場合は「ホワイトバランス画像の取り込みに成功しました。」とメッセージが表示されます。

「取り込みに失敗しました！・・・」とメッセージが出た場合は、再度シャッターボタンを押してください。

中止したい場合は **MENU** ボタンを押してください。

ISO感度の設定



フィルムカメラで、用途に合わせて感度の違うフィルムを選ぶように、撮影時の感度を選択することができます。

クイックセットメニュー (P.34)、もしくは「 撮影設定」(P.27) → 「ISO 感度」より設定します。

ISO オート(ISO AUTO) (初期設定)	ISO 800
ISO 100	ISO 1600
ISO 200	ISO 3200
ISO 400	ISO 6400

ご注意 !!

- Mモード時、「ISO オート」は選択できません。S、A、Pモード時に「ISO オート」を選択した場合、Mモード時は次項目「ISO オート範囲設定」で設定された下限の値で撮影されます。

ISO オート範囲設定



ISO オートにおける ISO 感度の下限、および上限を設定することができます。

1

「 撮影設定」(P.27) → 「ISO 感度」 → 「ISO オート」を選び、> ボタンを押して ISO オート範囲設定画面を表示させます。(「ISO オート」を選んだ後に、OK ボタンを押すと、前回の設定値がセットされます。)

クイックセットメニュー (P.34) からセットする場合は、「ISO AUTO」を選び、 ボタンを押して ISO オート範囲設定画面を表示させます。(「ISO AUTO」を選んだ後に、OK ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、前回の設定値がセットされます。)

2

「下限」、「上限」をそれぞれ設定します。

下限

ISO 100 (初期設定)	ISO 400
ISO 200	

上限

ISO 200	ISO 1600
ISO 400	ISO 3200
ISO 800 (初期設定)	ISO 6400

ご注意 !!

- 下限と上限が同じ値、もしくは逆転した値をセットすることはできません。

ISO 感度の設定は、通常 1 段ステップですが、1/3 段ステップに変更することができます。

「 撮影設定」(P.27) → 「ISO 感度ステップ」より設定します。

1 段 (初期設定)	ISO 感度を 1 段ステップで設定できます。
1/3 段	ISO 感度を 1/3 段ステップで設定できます。

1/3 段に設定した場合に、設定できる ISO 感度は、以下のようになります。

ISO AUTO	ISO 250	ISO 800	ISO 2500
ISO 100	ISO 320	ISO 1000	ISO 3200
ISO 125	ISO 400	ISO 1250	ISO 4000
ISO 160	ISO 500	ISO 1600	ISO 5000
ISO 200	ISO 640	ISO 2000	ISO 6400

メモ

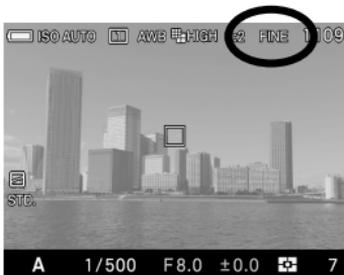
- 「1/3 段」にセットした場合、ISO オート範囲設定の下限、上限の設定値も 1/3 段ステップで設定できます。

画像の設定

記録画像は、お好みによって“画質”“画像サイズ”“アスペクト比”を変更することができます。

画質の設定

dp2 Quattro は、現像ソフト“SIGMA Photo Pro”による現像が必要な RAW 形式と、汎用性の高い JPEG 形式のいずれかで画像を記録することができます。



クイックセットメニュー (P.34)、もしくは「 撮影設定」(P.27) → 「画質」より設定します。

RAW	RAW	RAW 形式
RAW+J	RAW+JPEG	RAW と FINE(JPEG・高画質)の同時記録
FINE	FINE (初期設定)	JPEG・高画質
NORM.	NORMAL	JPEG・標準画質
BASIC	BASIC	JPEG・ファイルサイズ優先

- RAW 形式は、カメラ内でデジタル的な処理は行わず、素材性を重視した記録方式です。SIGMA Photo Pro による現像作業が必要ですが、SIGMA Photo Pro で汎用性の高い JPEG 形式や TIFF 形式に変換できます。
- SIGMA Photo Pro は、下記の弊社ウェブサイトより無料ダウンロードいただけます。<http://www.sigma-global.com>

メモ

- RAW+JPEG に設定した場合、JPEG の画質は FINE となります。
- RAW+JPEG に設定した場合、RAW、JPEG 共、設定された画像サイズで記録されます。

画像サイズの設定



画像の記録画素数（画像サイズ）を選択します。

クイックセットメニュー（P.34）、もしくは「 撮影設定」（P.27）→「画像サイズ」より設定します。

S-HI	S-HI	39.3M	7,680×5,120 (3:2 設定時)
HIGH	HIGH (初期設定)	19.6M	5,424×3,616 (3:2 設定時)
LOW	LOW	4.9M	2,704×1,808 (3:2 設定時)

- 「S-HI」は、画質の設定が JPEG（FINE、NORMAL、BASIC）の時のみ設定できます。

アスペクト比の設定

画像のアスペクト比（横縦比）を変更できます。

クイックセットメニュー（P.34）、もしくは「 撮影設定」（P.27）→「画アスペクト比」より設定します。

21:9	映画用ワイドスクリーンとほぼ同等の横縦比です。
16:9	ハイビジョンテレビと同じ横縦比です。
3:2(初期設定)	35mm フィルムカメラと同じ横縦比です。
4:3	従来のテレビやパソコン画面と同じ横縦比です。
1:1	6×6 版カメラで撮影したような正方形の横縦比です。

- 各横縦比の画像は、このカメラの基本横縦比 3:2 の画像からカットして作られます。

メモ

- RAW 形式で記録された画像は、SIGMA Photo Pro で他の比率に変更することができます。

各画質・画像サイズ・アスペクト比の組み合わせによる 1 画像あたりのおおよそのファイルサイズは以下のようになります。

画像サイズの設定が「S-HI」のとき

アスペクト比	記録画素数	 画質		
		FINE	NORM.	BASIC
21:9	25M 7680×3296	18.1 MB	9.7 MB	7.4 MB
	33M 7680×4320	23.7 MB	12.7 MB	9.5 MB
3:2	39M 7680×5120	28.1 MB	15.0 MB	11.3 MB
	35M 6816×5120	25.0 MB	13.3 MB	10.0 MB
1:1	26M 5120×5120	18.8 MB	10.0 MB	7.5 MB

画像サイズの設定が「HIGH」のとき

アスペクト比	記録画素数	 画質			
		RAW	FINE	NORM.	BASIC
21:9	13M 5424×2328	50.4 MB	8.4 MB	4.8 MB	3.6 MB
	17M 5424×3048	53.0 MB	11.0 MB	6.3 MB	4.7 MB
3:2	20M 5424×3616	55.1 MB	13.1 MB	7.5 MB	5.6 MB
	17M 4816×3616	53.6 MB	11.6 MB	6.6 MB	5.0 MB
1:1	13M 3616×3616	50.7 MB	8.7 MB	5.0 MB	3.7 MB

画像サイズの設定が「LOW」のとき

アスペクト比	記録画素数	 画質			
		RAW	FINE	NORM.	BASIC
21:9	3.1M 2704×1160	23.2 MB	2.2 MB	1.2 MB	0.9 MB
	4.1M 2704×1520	23.9 MB	2.9 MB	1.6 MB	1.2 MB
3:2	4.9M 2704×1808	24.5 MB	3.5 MB	1.9 MB	1.4 MB
	4.3M 2400×1808	24.1 MB	3.1 MB	1.7 MB	1.2 MB
1:1	3.3M 1808×1808	23.3 MB	2.3 MB	1.3 MB	0.9 MB

- ファイルサイズは被写体によって変化します。

測光モード



被写体の状況に合わせ、3つの測光方式を選べます。

クイックセットメニュー (P.34)、もしくは「 撮影設定」(P.27) → 「測光モード」より設定します。

	評価測光 (初期設定)
	中央重点測光
	スポット測光

評価測光

画面を 256 分割し、それぞれの部分の測光情報をもとにカメラが被写体の状況を判断して最適な露出を算出します。逆光や露出決定が難しい光線状態でも最適となる露出を判断します。(通常はこのモードにセットしてください。)

中央重点測光 (中央部重点平均測光)

画面中央部分にウエイトを置き、画面全体の平均的な明るさを算出します。順光などの比較的光線状態が良い場合に、最適な露出がえられます。

スポット測光

選択されているフォーカスフレームの範囲内の明るさのみを算出します。周辺の明るさに影響されず、被写体の特定のポイントに露出を定めたいときに有効です。

AEロック

AEL ボタンを押すと、その時の露出が固定されます。画面中央部に写したい被写体が無い場合などに便利です。特に、スポット測光との組み合わせで有効です。



1

露出を合わせたい部分を画面の中央部に合わせ **AEL** ボタンを押します。(スポット測光時は、露出を合わせたい部分を選択されているフォーカスフレームに合わせ **AEL** ボタンを押します。)

露出が固定され、画面中央上側に **AEL** アイコンが表示されます。

2

好みの構図にしてシャッターを切ります。

- もう1度 **AEL** ボタンを押してAEロックを解除するまで、何枚でも同じ露出で撮影できます。

AE ロックボタンの割り当て

AEL ボタンは、通常の AE ロック機能のほかに、フォーカスロック機能を割り当てることができます。

「 撮影設定」(P.27) → 「**AEL ボタンの設定**」より設定します。

AEL (初期設定)	AEL+AFL
AFL	AF-ON

AEL

通常の AE ロックの動作となります。上記「**AE ロック**」の項目をご覧ください。



AFL

AEL ボタンを押すと、フォーカスがロックされます。もう 1 度 AEL ボタンを押すまで、何枚でも同じピント位置で撮影できます。（露出はシャッターボタン半押し時に固定されます。）



AEL + AFL

AEL ボタンを押すと、AE ロックとフォーカスロックが同時に行われます。もう 1 度 AEL ボタンを押すまで、何枚でも同じ露出とピント位置で撮影できます。

AF-ON

AEL ボタンを押している間、ピントが合うまでオートフォーカスが動作し続けます。ピントが合うとフォーカスがロックされ、シャッターを切るとフォーカスロックが解除されます。

半押しリリース AEL

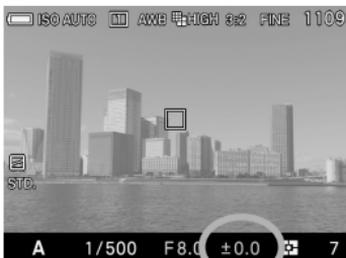
シャッターボタンを半押しした時に、露出を固定する、もしくは固定しない設定を選ぶことができます。

「 撮影設定」(P.27) → 「半押し AEL」より設定します。

切	シャッターボタンを半押しした時点では露出が固定されません。全押しした時点の露出で撮影されます。
入 (初期設定)	シャッターボタンを半押しした時点の露出が固定されます。半押し状態で構図を変えても、半押しした時点の露出で撮影されます。

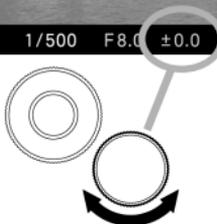
露出補正

カメラが判断した適正露出に対し、意図的に明るめにしたり、暗めにしたい場合、この機能を使います。



後ダイヤルを回して希望の補正量をセットします。

補正量は1/3段ステップで、±3段までできます。



ご注意!!

- 露出補正は自動的に解除されません。撮影が完了したら、後ダイヤルを回して補正量を±0.0に戻してください。
- 露出補正はMモードとの併用はできません。

オートブラケット撮影

カメラが判断した適正露出をはさんで、明るめと暗めに露出をずらした写真を連続で撮ることができます。



1

「 撮影設定」(P.27) → 「オートブラケット」 → 「ずらし量」を選び、> ボタンか  ボタンを押します。

2

 ボタンで、ずらし量をセットします。

- ずらし量は、1/3 段ステップで±3 段まで設定できます。



3

 ボタンを押して確定し、シャッターボタンを半押しして撮影状態に戻ります。(画面左端に、オートブラケットアイコンが表示されます。)

- 初期設定では、適正 → アンダー → オーバー の順序で撮影されます。
- 各ドライブモードでの動作は以下のようになります。

1 コマ撮影	シャッターボタンを押すごとに1コマずつ撮影されます。
連続撮影	シャッターボタンを押し続けると3枚連続撮影されます。
セルフタイマー 2 秒	シャッターボタンを押した後、2 秒後に 3 枚連続撮影されます。
セルフタイマー 10 秒	シャッターボタンを押した後、10 秒後に 3 枚連続撮影されます。

ご注意!!

- インターバルタイマー撮影との併用はできません。

- 各露出モードでの補正は以下のように行われます。

P モード	シャッター速度と絞りが共に変化します。
A モード	シャッター速度が変化します。
S モード	絞りが変化します。
M モード	設定したシャッター速度を中心としてシャッター速度が変化します。

注意!!

- オートブラケット機能は自動的に解除されません。撮影が完了したら同じ手順ですらし量を±0.0に戻してください。
- オートブラケット機能はフラッシュ撮影と併用できません。

- オートブラケットアイコンが以下のように変化し、何コマ目の撮影かがわかります。

1コマ目	2コマ目	3コマ目
		

- オートブラケットの撮影順序を変更することができます。

「 撮影設定」(P.27) → 「オートブラケット」 → 「順序」より設定します。

0 → - → + (初期設定)	適正 → アンダー → オーバー
- → 0 → +	アンダー → 適正 → オーバー
+ → 0 → -	オーバー → 適正 → アンダー

- オートブラケットは露出補正と組み合わせて使用できます。

カメラが判断した適性露出に対して、明るめや暗めな露出を基準にしたオートブラケット撮影ができます。前記の手順に従って、露出補正とオートブラケットの両方の設定を行ってください。どちらを先にセットしても結構です。

例えば、露出補正量+1.7、オートブラケットのずらし量を1.0とセットした場合の動作は以下のようになります。

1コマ目	+1.7 露出補正量+1.7、ずらし量なし
2コマ目	+0.7 露出補正量+1.7と、ずらし量-1.0の合成値
3コマ目	+2.7 露出補正量+1.7と、ずらし量+1.0の合成値

カラーモード

各撮影シーンに最適な色調、コントラストなどを調整したカラーモードを選択できます。また、モノクローム調の写真を撮ることができます。

クイックセットメニュー (P.34)、もしくは「 撮影設定」(P.27) → 「カラーモード」より設定します。

STD. スタンダード (初期設定)	さまざまなシーンに対応する基本的なカラーモードです。
VIVID ビビッド	彩度、コントラストが高めに設定され、鮮やかな印象に表現します。
NTR. ニュートラル	彩度、コントラストが控えめに設定され、落ち着いた雰囲気を再現します。
PORT. ポートレート	肌の階調を柔らかく表現する、人物撮影に適したモードです。
LAND 風景	青空や緑をより鮮やかに表現し、メリハリのある風景を再現します。
CINE. シネマ	彩度を抑え、シャドウを強調し、映画のようなイメージを再現します。
SUN R. サンセットレッド	赤の色再現を強調し、夕焼けなどのシーンをより印象的に表現します。
FOR G. フォレストグリーン	緑の色再現を強調し、草木などの緑をより印象的に表現します。
Fov B. FOV クラシックブルー	深みのある青色を表現し、印象的な青空を再現します。
Fov Y. FOV クラシックイエロー	黄色方向の色味が強調され、深みのある印象的な色調を再現します。
MONO. モノクローム	モノトーンの写真の撮ることができます。



画面左側に、設定されたカラーモードのアイコンが表示されます。

- **MONO.**(モノクローム)で撮影された RAW データは、SIGMA Photo Pro ではモノクロームモードとして開かれます。また、SIGMA Photo Pro でカラー画像に戻すこともできます。(JPEG データはカラー画像には戻せません。)

カラーモード詳細設定

各カラーモードに対し、好みの画像に仕上がるように画像のパラメーター（コントラスト、シャープネス、彩度）を調整することができます。

● コントラスト

+側にすると明暗差が強くなり、メリハリの効いた画像になります。-側にすると明暗差が弱くなり、白飛びや黒つぶれを少なくすることができます。

□ シャープネス

+側にすると輪郭のはっきりとした鮮明な画像になります。-側にすると輪郭のやわらかいソフトな画像になります。

●● 彩度（モノクロームを除く）

+側にすると彩度が高くなり、色鮮やかな画像になります。-側にすると彩度が低くなり、落ち着いた画像になります。

フィルター効果（モノクロームのみ）

モノクロ画像にコントラストの変化を与えることができます。フィルターの色に対して、同色系の色が明るく、補色系の色が暗く表現されます。

OFF 切（初期設定）	YE 黄	OR オレンジ
R 赤	G 緑	B 青

- 通常は「切」（OFF）に設定してください。

調色（モノクロームのみ）

色味のついたモノクロ画像に仕上げるすることができます。

B/W 白黒（初期設定）	R 赤	WARM 温黒調	SEPIA セピア	G 緑
BG 青緑	B 青	COLD 冷黒調	BP 青紫	P 紫

1

「 撮影設定」（P.27）→「カラーモード」で好みのカラーモードを選び、 ボタンを押してカラーモード詳細設定画面を表示させます。

クイックセットメニュー（P.34）からセットする場合は、好みのカラーモードを選び、 ボタンを押してカラーモード詳細設定画面を表示させます。



2

カラーモード詳細設定画面で、 ボタンを押して「コントラスト」、「シャープネス」、「彩度」のいずれかを選び、 ボタンで調整量（0.2 段ステップで±1.0 まで調整できます）もしくは希望のオプションをセットします。

3

確定する場合は  ボタンを、変更しない場合は **MENU** ボタンを押してください。

- リセットしたい場合は  ボタンを押してください。



パラメーターを調整すると、画面左側に調整中のパラメーターアイコンと調整量が表示されます。

メモ

- JPEG データの場合、パラメーター調整が行われた後に圧縮処理されます。RAW データの場合、画像には調整が行われずにパラメーター情報が記録されます。SIGMA Photo Pro でデータを展開したときに反映され、SIGMA Photo Pro 上でも再調整を行うことができます。

白とび軽減



センサー上に配列された白とび軽減用画素から得られる階調情報をもとに、露出オーバーによる白とびを軽減することができます。

白とび軽減：切



白とび軽減：入



「 撮影設定」(P.27) → 「白とび軽減」 → 「入」を選びます。

ご注意!!

- 次の条件では、白とび軽減を「入」にしても、白とび軽減が効きません(画面上の  アイコンがグレーになります)。①0.8秒よりも遅いシャッター速度の場合 ②ISO400以上の高感度の場合。
- 光の状態によっては、白飛び軽減機能でも適切に調整できず、被写体の一部に色付が発生する場合があります。その場合は白飛び軽減を「切」でご使用ください。

トーンコントロール

シーンによって自動的にトーンカーブを最適化することにより、明暗差の大きな場面などでも、自然な階調の画像にすることができます。

トーンコントロール：切



トーンコントロール：強



「 撮影設定」(P.27) → 「トーンコントロール」より設定します。

OFF	切	トーンコントロール機能を OFF にします。
	弱 (初期設定)	控えめな効果が得られます。
	強	強い効果が得られます。

ご注意!!

- シーンによっては、補正効果によりノイズが目立つ場合があります。その場合は「切」に設定してください。

カラースペース

一般的な色空間である sRGB か、主に商用印刷など業務分野で使われている Adobe RGB を選択することができます。

「 撮影設定」(P.27) → 「カラースペース」より設定します。

sRGB (初期設定)	Adobe RGB
-------------	-----------

ご注意!!

- 通常、カラースペースは sRGB に設定してください。Adobe RGB に設定された画像を扱う場合は、必ず SIGMA Photo Pro か、DCF2.0 に準拠したソフトを利用してください。

縦位置情報記録

縦位置で撮影された情報を画像に記録することができます。

「 撮影設定」(P.27) → 「縦位置情報記録」より設定します。

切	縦位置情報を記録しない
入 (初期設定)	縦位置情報を記録する

- 縦位置情報が記録された画像は、再生時に自動的に縦方向に回転されて表示されます。
- 縦位置情報が記録された画像を SIGMA Photo Pro で開いた場合、自動的に縦方向に回転されて表示されます。
- 縦位置情報が記録された画像を「▶再生設定」の「回転」で向きを変更した場合、その後は変更された状態で表示されます。

ご注意!!

- カメラを斜めに構えたり、上向き、下向きで撮影した場合、縦位置情報が正しく記録されない場合があります。

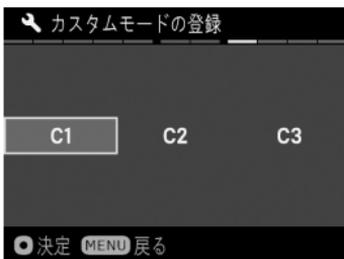
カスタムモード

好みの設定を登録し、モードボタンで簡単に呼び出すことができます。(3つのパターン登録することができます。)

以下の項目の設定を一括登録できます。

- 「📷撮影設定」(青タブ) (P.27) の項目すべて
- 露出モード (M, S, A, P) (P.43)
- 絞り・シャッターの設定値
- フォーカスフレームの設定 (P.49)
- 露出補正 (P.75)

設定の保存



1

前記の項目を一通り好みの状態に設定します。

2

「📷撮影設定」(P.27) → 「カスタムモードの登録」より、<>ボタンで C1、C2、C3 のいずれかを選び、OK ボタンを押して確認メッセージを開きます。

3

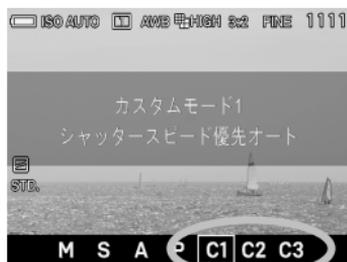
◀▶ ボタンで「はい」を選び、OK ボタンを押して確定します。

中止したい場合は、◀▶ ボタンで「いいえ」を選び OK ボタンを押します。

ご注意 !!

- 保存を確定すると、以前に保存されていた設定は、新しい設定に上書きされます。

設定の呼出し



モードボタンで **C1**、**C2**、**C3** のいずれかにセッットします。



カスタムモード時に、前記項目の設定を一時的に変更することができます（露出モードを除く）。

変更するとファンクション画面のカスタムモード表示部に ● マークが点灯します。

以下の操作により、変更した設定内容はクリアされます。

- 電源を OFF にする（オートパワーオフ機能で OFF になった場合も含む）
- モードボタンで他のモードに変更する

フラッシュを使う

夜間の撮影に便利な専用小型フラッシュ（別売）の操作方法を説明します。

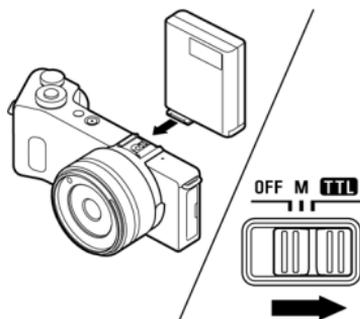
外部フラッシュ撮影について

dp2 Quattro は外部フラッシュを取り付けることができるホットシューを備えており、自動調光撮影ができる専用小型フラッシュが用意されています。

エレクトロニックフラッシュ EF-140S SA-STTL（別売）

- 余裕の発光量（最大ガイドナンバー14（ISO100））により、夜間の撮影範囲を広げることができます。
- S-TTL 方式による自動調光撮影が可能です。
- 単4形ニッケル水素電池（推奨）を2本使用。dp2 Quattro とベストマッチの小型軽量設計です。
- 自動調光撮影に加え、マニュアル発光も可能です。
- シグマデジタル一眼レフカメラ SD1 Merrill / SD1 / SD15 / SD14 にもご使用になれます。S-TTL 方式による自動調光撮影が可能です。

フラッシュ撮影



1

カメラの電源を OFF にし、フラッシュの説明書に従って、カメラにフラッシュを取り付けます。

2

カメラの電源を ON にし、フラッシュの電源スイッチを TTL にセットします。

3

液晶モニタのフラッシュモードのアイコンが点灯していることを確認して撮影します。



ご注意 !!

- フラッシュの充電中はフラッシュモードのアイコンが点滅します。アイコンの点滅中にシャッターを切ると、フラッシュが光らず、手ブレや露出不足の原因となりますのでご注意ください。
- カメラの露出モードが P、A、S モードの時、ご使用になれるシャッター速度は 1/200 秒までとなります。(M モード時は制限がありません。)

- フラッシュで撮影できる範囲は以下の通りです。(P モード時)

ISO 感度	フラッシュ調光範囲
ISO100	約 1m ~ 5m
ISO200	約 1m ~ 7m
ISO400	約 1m ~ 10m
ISO800	約 1m ~ 14m
ISO1600	約 1m ~ 20m
ISO3200	約 1m ~ 28m
ISO6400	約 1m ~ 40m

メモ

- ISO 感度の設定を「ISO オート」にセットしてフラッシュ撮影を行う場合、「ISO オート範囲設定」の「下限」でセットした値で撮影されます。

フラッシュモードの設定

通常のフラッシュ撮影のほかに、赤目緩和モードや調光補正などが設定できます。

クイックセットメニュー (P.34)、もしくは「 撮影設定」(P.27) → 「フラッシュ」 → 「フラッシュモード」より設定します。

	通常発光 (初期設定)
	赤目発光
	スローシンクロ
	赤目発光 + スローシンクロ

通常発光モード

通常のフラッシュ撮影が行われます。

- 通常はこのモードに設定してください。

赤目緩和モード（赤目発光）

フラッシュを使用して人物を撮影すると、瞳が赤く写ることがあります。赤目緩和モードはシャッターが切れる前に数回のプリ発光を行い、赤目現象を緩和することができます。

- 撮影条件や個人差により、完全に赤目現象を除去できない場合があります。

/ スローシンクロモード

P/Aモード時のフラッシュ撮影では、シャッター速度が手ぶれを起こしにくいシャッター速度(1/50 秒以上)に制限されますが、スローシンクロモードに設定すると、明るさに応じて30秒までのスローシャッターで制御されます。夜景と人物の両方に露出の合った写真を撮ることができます。

ご注意 !!

- フラッシュモードは、フラッシュを取り付けていない状態、もしくはフラッシュの電源がOFFの状態では設定できません。
- フラッシュ側のモードをマニュアル発光にセットした場合、赤目緩和モードは使用できません。

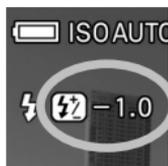
調光補正

背景の露出には影響を与えずに、フラッシュの光量のみ補正することができます。

「 撮影設定」(P.27) → 「フラッシュ」 → 「調光補正」より設定します。

 ボタンで補正量をセットします。

● 補正量は 1/3 段ステップで、±3 段までできます。



調光補正を設定すると、画面左側に調光補正アイコンと補正量が表示されます。

ご注意!!

- 調光補正は、フラッシュを取り付けていない状態、もしくはフラッシュの電源が OFF の状態では設定できません。
- 調光補正は自動的に解除されません。撮影が完了したら、上記手順にて補正量を±0.0に戻してください。

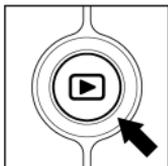
画像の再生、消去

ここでは、撮影した画像の再生や消去の仕方について説明します。

画像の再生

dp2 Quattro で撮影した画像を様々な方法で再生することができます。

dp2 Quattro で撮影した画像を再生するには、本体背面の  ボタンを押します。カードに最後に記録された画像が、液晶モニタに表示されます。



 ボタンを押すと、画像が再生されます。

再度  ボタンを押すと撮影状態に切り替わります。

メモ

- 電源 OFF の状態でも、約 2 秒間  ボタンを押し続けると電源が入り、画像が再生されます。
- 撮影画像を再生してから新たに撮影した画像がない場合は、最後に再生した画像が表示されます。
- カードに画像がない場合は、“**画像がありません**”と警告表示されます。
- 画像の再生中でも、 ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影を始めることができます。

ご注意!!

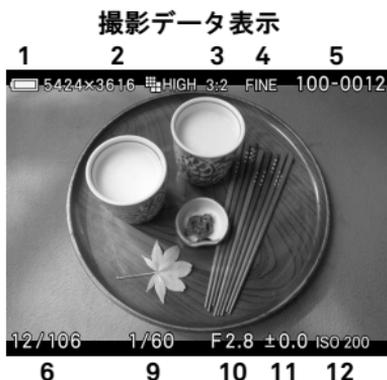
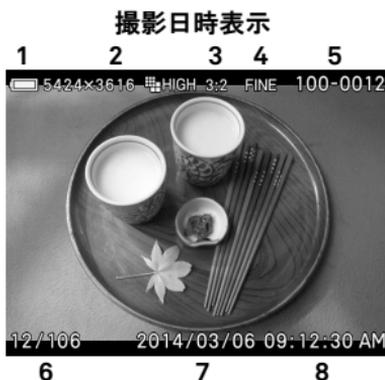
- 他のカメラで撮影した画像や、ファイル名を変更したり、カード内の DCIM フォルダから移動させた画像ファイルは、表示できない場合があります。

1 画像再生

記録された画像を見るには、本体背面の  ボタンを押します。

1 画像再生中は：

-  ボタンを押すと、後の画像を表示します。
-  ボタンを押すと、前の画像を表示します。
- 後ダイヤルを回すと、前後の画像を表示します。
-  ボタンを押すと、情報表示が切り替わります (P.36)。



1	電池残量表示
2	画像サイズ
3	アスペクト比
4	画質
5	フォルダ番号-ファイル番号
6	ファイル順/ファイル数

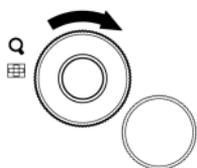
7	年/月/日
8	時/分/秒
9	シャッター速度
10	絞り値
11	露出補正值
12	ISO 感度

メモ

-   ボタンを押したままにすると、より速く画像を切り替えることができます。画像の切替えは、ボタンを離すまで自動的に行われます。
- 最初と最後の画像はリンクしています。最初の画像で  ボタンを押すと最後の画像が表示されます。また、最後の画像で  ボタンを押すと最初の画像が表示されます。

拡大して表示する（拡大表示）

画像を拡大表示することができます。画像を詳細に見たり、ピントのチェックに便利です。



1 画像再生中に前ダイヤルを Q 側に回します。

拡大率は以下の通りです。

等倍→X1.25→X1.6→X2.0→X2.5→X3.15→X4.0→X5.0→X6.3→X8.0→X10.0

拡大表示中は：

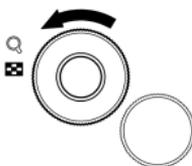
- 前ダイヤルを Q 側に回すとより拡大されます。☒側に回すと縮小されます。
- ◀▶ ボタンで上下方向に、◀▶ ボタンで左右方向に再生部分を移動できます。
- OK ボタンを押すと等倍に戻ります。
- 後ダイヤルを回すと、前後の画像を表示します。

メモ

- 拡大表示は、撮影時のフォーカスポイントの位置を基準に拡大表示されます。

9 画像表示（コンタクトシート表示）

9 画面表示の「コンタクトシート」では、複数の画像を一度に表示することができます。



1 画像再生中に前ダイヤルを  側に回します。



コンタクトシート表示では：

-  ボタンで他のサムネイル画像の選択ができます。
- 前ダイヤルを  側に回すと、選択されているサムネイル画像が 1 画像再生されます。
- 後ダイヤルを回すと、前後のページを表示します。

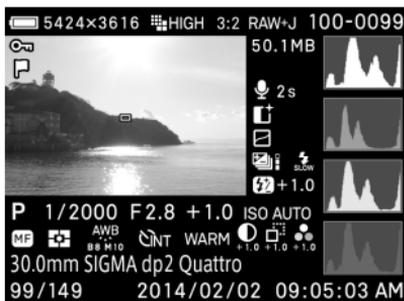
メモ

- 最初のページと最後のページはリンクしています。最初のページの前は最後のページ、最後のページの次は最初のページが表示されます。

画像情報を見る

撮影された画像の詳細情報を見ることができます。シャッター速度や絞り値以外に、測光モードやフォーカスモードなど、詳細な情報が表示されます（画像情報スクリーン）。

1 画像再生中に **[]** ボタンを数回押します。



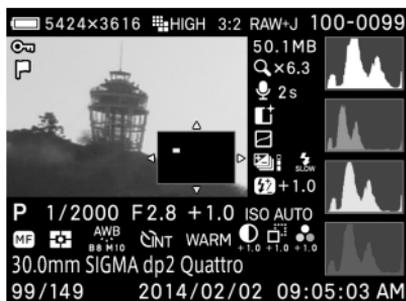
1	電池残量表示	21	ISO 感度
2	画像サイズ	22	フォーカスモード ※
3	アスペクト比	23	測光モード
4	画質	24	ホワイトバランス フィルター効果（モノクローム時）
5	フォルダ番号	25	ドライブモード
6	ファイル番号	26	カラーモード 調色（モノクローム時）
7	ロック ※	27	コントラスト ※
8	マーク ※	28	シャープネス ※
9	フォーカスフレーム	29	彩度 ※
10	ファイルサイズ	30	レンズ焦点距離
11	音声メモ ※	31	カメラ名
12	白とび軽減 ※	32	ファイル順 / ファイル数
13	トーンコントロール	33	年月日
14	オートブラケット ※	34	時分秒
15	フラッシュモード ※	35	ヒストグラム（輝度）
16	調光補正值 ※	36	ヒストグラム（赤）
17	露出モード	37	ヒストグラム（緑）
18	シャッター速度	38	ヒストグラム（青）
19	絞り値		
20	露出補正值		

※設定時のみ表示されます。

画像情報スクリーンでは：

- 再度 **□** ボタンを押すと、通常の1 画像再生表示に戻ります。
- 1 画像再生と同様に、**<>** ボタンで画像の切替えができます。
- 後ダイヤルを回すと、前後のページを表示します。

画像情報スクリーンでの拡大表示



画像情報スクリーンの表示中に前ダイヤルを **Q** 側に回すと画像が拡大され、特定領域の詳細なヒストグラム情報を見ることができます。

- ヒストグラムについての詳細は次の項目をご覧ください。

画像情報スクリーンでの拡大表示中は：

- **◇** ボタンで上下方向に、**<>** ボタンで左右方向に再生部分を移動できます。（ヒストグラム値が自動的に変わります。）
- 前ダイヤルを **Q** 側に回すとより拡大されます。**■** 側に回すと縮小されます。
- **OK** ボタンを押すと、拡大表示を解除しフル画像の画像情報スクリーンが表示されます。
- 後ダイヤルを回すと、前後のページを表示します。

ヒストグラム

ヒストグラムは、画像の明るさの分布をグラフ表示にしたものです。水平軸は明るさのレベルを示し、左方向ほど暗く、右方向ほど明るくなります。垂直軸は各明るさの画素の登場回数を表しています。グラフの分布状態を見ることにより、露出の判断の参考にすることができます。

dp2 Quattro のヒストグラム表示は、R（赤）G（緑）B（青）それぞれのレベルを同時に表示するしくみになっています。（撮影モード時に表示されるヒストグラムは RGB を合わせた値です。）

フル画像時のヒストグラムを調べることによって、画像全体の露出を判断することができます。また、拡大表示でのヒストグラムを見ることにより、任意の部分の露出を判断することもできます。



このヒストグラムは、画素の分布が暗い方向にかたよりに、明るい方向に殆ど存在していません。従って露出不足で全体に暗めの画像であることを示しています。一般に左側にかたよっているヒストグラムは、上記のように露出が不足している場合か、もしくは適正露出でも、暗い部分や暗めの被写体が画面に占める割合が大きく、暗い画素で構成された画像の場合です。



このヒストグラムは、ほぼ均一に画素が分布されており、適正に露出された画像であることを示しています。ただしヒストグラムは、被写体の色や画面に占める割合などによって大きく左右されますので、一概に適正露出であるとは限りません。



このヒストグラムは、画素の分布が明るい方向にかたよりに、右端に多くの画素が存在しています。従って露出オーバーで全体に明るめ画像であることを示しています。一般に、右側にかたよっているヒストグラムは、上記のように露出がオーバーしている場合か、もしくは適正露出でも明るい部分や明るめの被写体が画面に占める割合が大きく、明るい画素で構成された画像の場合です。

ファイルの消去

カードに記録されたファイルを消去する方法を説明します。

- この章では、カードに記録された画像を「ファイル」と表しています。

消去ボタンで消去する



 (消去) ボタンでは、現在表示中のファイルのみ消去できます。

1

消去したいファイルを表示します。

2

 ボタンを押します。(「このファイルを消去しますか？」と確認メッセージが表示されます)

3

 ボタンで「はい」を選び、 ボタンを押して確定します。

中止したい場合は、 ボタンで「いいえ」を選び  ボタンを押します。

ご注意 !!

- ファイルがロックされている場合は「このファイルはロックされています。」と確認メッセージが表示され、消去から保護されます。消去したい場合は、はじめにロックを解除してください。(P.100-102 参照)
- RAW+JPG で記録された画像は、RAW 画像、JPEG 画像共に消去されます。

消去メニューからファイルを消去する

消去メニューからはひとつのファイル、あるいは複数のファイルをまとめて消去することができます。



1

画像の表示中に **MENU** ボタンを押して「再生設定」(P.27)を開き「消去」を選びます。

2

サブメニューで、以下のいずれかの方法を選びます。

ファイル選択	複数のファイルを選択して消去します。◀▶ ボタンで消去したいファイルを表示させ、◊ ボタンで🗑️ アイコンを表示させます。この操作を繰り返して消去したい画像を指定します。
現在のファイル	現在の1ファイルのみ消去します。
マーク画像	カード内に記録されたマークした画像をすべて消去します。(画像のマークについてはP.102-104をご覧ください。)
全画像	カードに記録されたすべてのファイルを消去します。

3

OK ボタン、もしくは ▶ ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

4

◀▶ ボタンで「はい」を選び、OK ボタンを押して確定します。

中止したい場合は、◀▶ ボタンで「いいえ」を選び OK ボタンを押します。

ご注意 !!

- ロックされたファイルは消去されません。(画像のロックについてはP.100 - 102をご覧ください。)
- 「ファイル選択」「マーク画像」「全画像」の消去は、カード内のファイル数によって、かなりの時間が掛かることがあります。

メモ

- 「現在のファイル」以外は、画像を表示していないときでも実行できます。

再生時のその他の機能

スライドショー、ロック、マーク、回転などの機能を説明します。

ファイルをロックする



ロックは、誤ってファイルを消去することを防ぎます。

警告 !!

- ロックされていても、カードの初期化を行うとファイルは消去されます。カードの初期化を行うときは十分注意してください。

メモ

- ロックされたファイルは、パソコンでは「読み取り専用」と表示されます。

ひとつのファイルのロックする

1

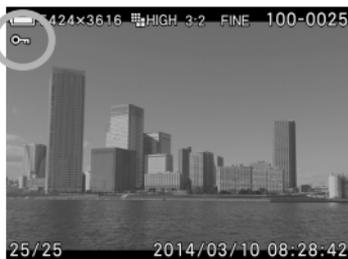
ロックしたい画像を表示させ、MENU ボタンを押して「再生設定」(P.27)を開き「ロック」を選びます。

2

サブメニューで「ロック」を選びます。

3

OK ボタン、もしくは ➤ ボタンを押します。



- ロックされたファイルに  マークが表示されます。

メモ

- ファイルが既にロックされている場合は、「**ロック解除**」と表示されます。
- ロックを解除するには、ロックされたファイルを選択し、上記と同じ手順で解除します。
- **OK** ボタンをロックのショートカットボタンに設定することができます。（P.107 参照）

複数のファイルをロックする

1

MENU ボタンを押して「**再生設定**」(P.27) を開き「**ロック**」を選びます。

2

サブメニューで、以下のいずれかの方法を選びます。

ファイル選択	複数のファイルを選択してロックします。 <> ボタンでロックしたいファイルを表示させ、 ◇ ボタンで 🔒 アイコンを表示させます。この操作を繰り返してロックしたい画像を指定します。
🚩 ロック	マークされた画像をすべてロックします。(画像のマークは P.102 - 104 をご覧ください。)
全ロック	すべてのファイルをロックします。

3

OK ボタン、もしくは **>** ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

4

<> ボタンで「はい」を選び、**OK** ボタンを押して確定します。

中止したい場合は、**<>** ボタンで「いいえ」を選び **OK** ボタンを押します。

- ロックされたファイルにはすべて、**🔒** マークが表示されます。

ご注意 !!

- 「ファイル選択」「 ロック」および「 ロック解除」は、カード内のファイル数によって、かなりの時間が掛かることがあります。

メモ

- 複数のファイルをロック解除するには、ロックメニューの「全ロック解除」か「 ロック解除」を選択します。

画像をマークする



画像をマークすると、お気に入りの画像の区分け、スライドショー用の画像の選別、消去メニューの「マークしたファイルをすべて消去」(P.98)で消去する等、画像の選別に便利です。

メモ

- カメラでマークした画像は、SIGMA Photo Pro 上でもマーク状態と表示されます。

ひとつの画像をマークする

1

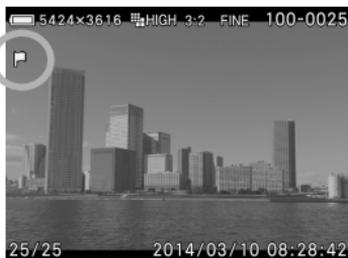
マークしたい画像を表示させ、MENU ボタンを押して「 再生設定」(P.27)を開き「マーク」を選びます。

2

サブメニューで「マーク」を選びます。

3

OK ボタン、もしくは **➤** ボタンを押します。



- マークされた画像に **■** マークが表示されます。

メモ

- 既にマークされている場合は、「**マーク解除**」と表示されます。
- マークを解除するには、マークされた画像を選択し上記と同じ手順で解除します。
- **OK** ボタンを画像のマークのショートカットボタンに設定することもできます。(P.107 参照)

複数の画像をマークする

1

MENU ボタンを押して「**再生設定**」(P.27)を開き「**マーク**」を選びます。

2

サブメニューで、以下のいずれかの方法を選びます。

ファイル選択	複数の画像を選択してマークします。 ◀▶ ボタンでマークしたい画像を表示させ、 ◆ ボタンで ■ アイコンを表示させます。この操作を繰り返してマークしたい画像を指定します。
全画像マーク	すべての画像をマークします。

3

OK ボタン、もしくは **➤** ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

4

◀▶ ボタンで「はい」を選び、OK ボタンを押して確定します。

中止したい場合は、◀▶ ボタンで「いいえ」を選び OK ボタンを押します。

- マークされた画像にはすべて  マークが表示されます。

ご注意 !!

- 「ファイル選択」「全画像マーク」および「全画像マーク解除」は、カード内のファイル数によって、かなりの時間が掛かることがあります。

メモ

- マークされた画像をすべて解除するには、マークメニューの「全画像マーク解除」を選択します。

画像を回転する



画像の表示方向を回転させることができます。

ひとつの画像を回転する

1

回転させたい画像を表示させ、MENU ボタンを押して「 再生設定」(P.27)を開き「回転」を選びます。

2

サブメニューで、以下のいずれかの方法を選びます。

 回転	画像を右回り（時計方向）に 90 度回転します。
 回転	画像を左回り（反時計方向）に 90 度回転します。

ご注意 !!

- 「 **再生設定**」（P.27）の「**回転表示**」が「切」に設定されている場合、画像回転メニューは選択できません。

メモ

- 180 度回転する場合は同じ方向に 2 回、回転させます。
- 元に戻すには、反対方向に回転させます。
- **OK** ボタンを画像回転のショートカットボタンに設定することができます。（P.107 参照）
- カメラで回転させた画像は、SIGMA Photo Pro でも同じ向きで表示されます。

複数の画像を回転する

1

MENU ボタンを押して「 **再生設定**」（P.27）を開き「**回転**」を選びます。

2

サブメニューで、「**ファイル選択**」を選びます。

3

<> ボタンで回転したい画像を表示させ、右回転させたい場合は **▲** ボタン、左回転させたい場合は **▼** ボタンを押します。この操作を繰り返して回転させたい画像を指定します。

4

OK ボタン、もしくは ▶ ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

5

◀▶ ボタンで「はい」を選び、OK ボタンを押して確定します。

中止したい場合は、◀▶ ボタンで「いいえ」を選び OK ボタンを押します。

露出警告

露出オーバーで、画像が白く飛んでしまっているハイライト部分を、赤色で警告表示することができます。

「▶ 再生設定」(P.27) → 「露出警告」で、「入」に設定してください。

- 露出警告は、撮影画像確認画面では表示されません。

露出警告表示を中止したい場合は、「▶ 再生設定」(P.27) → 「露出警告」で、「切」に設定してください。

メモ

- OK ボタンを露出警告「入/切」のショートカットボタンに設定することもできます。(P.107 参照)

OKボタンの割り当て



ボタンに再生メニューの機能を割り当てることができます。よく使う機能を割り当てて、1アクションで簡単に行うことができます。

「**再生設定**」(P.27) → 「**OK ボタンの機能**」より設定します。

OK ボタンに割り当て可能な機能

ロック	ロックしていない画像上で OK ボタンを押すとロックされます。既にロックされている画像上で OK ボタンを押すとロックが解除されます。
マーク	マークしていない画像上で OK ボタンを押すとマークされます。既にマークされている画像上で OK ボタンを押すとマークが解除されます。
露出警告	OK ボタンを押すたびに露出警告表示の ON/OFF が繰り返されます。
⌚ 回転	OK ボタンを押すたびに、画像を右回り（時計方向）に 90 度回転します。
⌚ 回転	OK ボタンを押すたびに、画像を左回り（反時計方向）に 90 度回転します。
拡大表示 (初期設定)	OK ボタンを押すたびに拡大表示（10x） / 等倍表示が繰り返されます。

割り当てられた機能を解除するには、「**再生設定**」(P.27) → 「**OK ボタンの機能**」で、「なし」に設定してください。

画像に音声メモを付ける

撮影済の画像に、30秒までの音声のメモを付けることができます。撮影時の状況などをメモ代わりに声で記録するなど、非常に便利な機能です。

1

「**再生設定**」(P.27) → 「**音声メモ**」で、「**入**」に設定します。

2

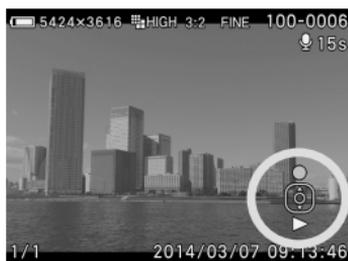
MENU ボタンを押してメニューを閉じます。



3

△ ボタンを押すと、録音が始まります。

録音中に **▽** ボタンを押すと録音を中止します。
30秒を経過すると録音が自動的に停止します。



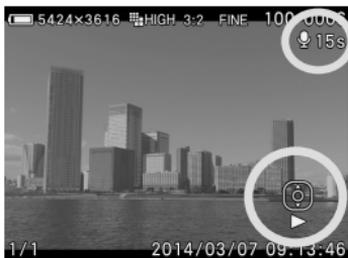
録音された音声は、**▽** ボタンを押すと再生されます。(音声付画像の再生の詳細は、P.109「**音声付画像を再生する**」をご覧ください。)

- すでに音声の付けられた画像で **△** ボタンを押すと、上書き確認メッセージが表示されます。音声を上書きしたい場合は **◀▶** ボタンで「はい」を選び、**OK** ボタンを押します。中止したい場合は、**◀▶** ボタンで「いいえ」を選び **OK** ボタンを押します。
- 音声メモ機能を解除したい場合は、「**再生設定**」(P.27) → 「**音声メモ**」で、「**切**」に設定してください。

ご注意 !!

- カードの容量が殆どない状態では、音声メモを付けることができません。

音声付画像を再生する



1

1 画像再生時に音声の付いた画像が選択されると、マイクアイコンと操作ガイドアイコンが表示されます。

2

✓ ボタンを押すと、音声が再生されます。
再度 ✓ ボタンを押すと、音声が停止します。

ご注意 !!

- 拡大表示、コンタクトシート表示は、音声の再生ができません。

メモ

- 再生の音量を変えたい場合は、「 **カメラ設定**」(P.27) → 「**音声**」 → 「**再生音量**」で変更できます。詳しくは P.122 「**音声設定**」をご覧ください。
- 画像に付けられた音声は、画像と同じファイル番号の WAV 形式ファイルとして保存されています。例えば、ファイル番号 SDIM0010.JPG に付けられた音声は SDIM0010.WAV となります。パソコンに移したファイルを再生する場合は、画像と音声を関連付けた再生はできません。音声は WAV ファイルの再生が可能なソフトで再生してください。

スライドショーを見る

dp2 Quattro のスライドショー機能を使用すると、すべての画像あるいは選択した画像のみを自動的に再生します。

スライドショーオプション

全画像	すべての画像を再生します。
ロック画像	ロックされた画像のみ再生します。
マーク画像	マークされた画像のみ再生します。
スライドショーの設定	表示間隔の設定、繰り返しのする/しないを設定します。

スライドショーの見方

1

画像の表示中に **MENU** ボタンを押して「再生設定」(P.27) を開き「スライドショー」を選びます。

2

サブメニューで「全画像」「ロック画像」「マーク画像」のいずれかを選びます。

3

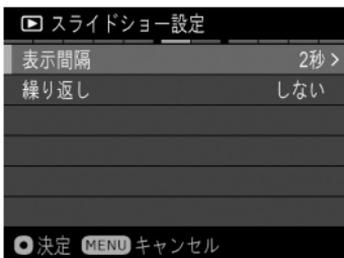
OK ボタン、もしくは **➤** ボタンを押すと、スライドショーが始まります。

スライドショーを途中で停止したい場合は、**OK** ボタンを押します。

ご注意 !!

- 「マーク画像」を選択した場合、カード内のファイル数によっては、スライドショーが開始されるまで、かなりの時間が掛かることがあります。

スライドショーの設定を変更する



スライドショーのサブメニューで「スライドショーの設定」を選択し、**OK** ボタン、もしくは **>** ボタンを押すと、スライドショーの設定画面に移ります。

スライドショーの設定オプション

表示間隔	2 秒 5 秒 10 秒	画像が表示される時間を設定します。
繰り返し	しない する	スライドショーを繰り返すか、自動終了するかを設定します。

表示間隔

◇ ボタンで「表示間隔」を選択し、<> ボタンで表示したい秒数を選びます。

繰り返し

◇ ボタンで「繰り返し」を選択し、<> ボタンで「しない」か「する」を選びます。

設定の変更を確定する場合は **OK** ボタンを、しない場合は **MENU** ボタンを押します。

DPOFプリント

カードをデジタルプリント取り扱い店に持ち込んでプリントを依頼するとき、DPOF プリントメニューでプリントしたい画像の選択や枚数をあらかじめカメラで指定しておくことができます。指定情報は DPOF 対応プリンターでプリントする際にも利用できます。

ご注意 !!

- RAW データ (X3F ファイル) は、DPOF プリントの設定ができません。

1

画像の表示中に **MENU** ボタンを押して「**再生設定**」(P.27)を開き「**DPOF 設定**」を選びます。

2

サブメニューで希望の指定方法を選択し、**OK** ボタン、もしくは **▶** ボタンを押します。

DPOF 設定オプション

ファイル選択	◆ ボタンを押して印刷枚数を指定します。1 回で複数の画像を指定したい場合は、プリントしたい画像を <> ボタンで表示させて ◆ ボタンを押して枚数を指定します。この操作を繰り返して指定します。
全選択	カードに記録されているプリント可能な静止画データを一括指定します。◆ ボタンを押して枚数を指定します。
選択解除	以前に指定された枚数の指定を全てリセットします。

3

OK ボタン、もしくは **▶** ボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

4

<> ボタンで「はい」を選び、**OK** ボタンを押して確定します。

中止したい場合は、<> ボタンで「いいえ」を選び **OK** ボタンを押します。

その他の設定変更

カメラの基本動作を好みの状態に変更できる設定項目をご紹介します。

ファイル番号の設定

記録されたデータには、自動的に 0001 から 9999 までのファイル番号が付けられます。データを再生しているときは、液晶モニタの右上にファイル番号が表示されます (P.91, 94 参照)。また、ファイル番号はデータのファイル名にも表示されます。ファイル名は、4 ケタのファイル番号と拡張子が SDIM の後に続きます。例えば、画像番号 0023 は RAW データの場合、SDIM0023.X3F、JPEG データの場合、SDIM0023.JPG と記録されます。dp2 Quattro で撮影された画像ファイルは、すべてカードの DCIM フォルダ内の###SIGMA フォルダに記録されます。

- 「 撮影設定」(P.27) → 「カラースペース」で、「Adobe RGB」が選択されている場合、ファイル名の「SDIM」は「_SDI」となります。
- ファイル番号は連番か、空のカードを入れるたびにリセットされるかのいずれかを選択できます。設定は「 カメラ設定」(P.27) → 「ファイル番号」より行います。

ファイル番号設定メニュー

通し番号 (初期設定)	連続でファイル番号が付けられます。空のカードを入れたとき、最初のファイルに付けられるファイル番号は、以前の撮影で付けられた最後の番号より 1 つ大きい番号が付けられます。(dp2 Quattro で撮影した画像が記録されているカードを入れた場合、以前に付けられた最後の番号よりもカード内のファイルの番号が大きければ、その番号の続きが付けられます。)
オートリセット	空のカードを入れたり、使用中のカード内の画像をすべて消去するたびに、ファイル番号が初期の番号 0001 にリセットされます。(dp2 Quattro で撮影した画像が記録されているカードを入れた場合、番号はリセットされずに次の番号が付けられます。)

ご注意 !!

- フォルダ番号・ファイル番号が "999-9999" に達した場合、カードに空き容量があっても、「**ファイル番号・フォルダ番号の割り当てができません。**」とメッセージが表示され、それ以上撮影ができなくなります。一旦再生モードに切り換え、ファイル番号を確認してください。"999-9999" のファイルが存在する場合には、以下の対処を行ってください。
 1. カード内のすべてのファイルをパソコン等に保存します。
 2. カードを初期化します。
 3. 「**ファイル番号**」の設定が「**通し番号**」になっている場合は、一旦「**オートリセット**」に設定します。
 4. これで撮影を続けることができます。通常、ファイル番号を「**通し番号**」に設定している方は、再度「**通し番号**」に設定してください。
- 予備のカードに入れ替えて撮影を続行したい場合は、手順 3 から同様の設定を行ってください。

ファイル名の変更

撮影画像のファイル名を「SDIM」か「DP2Q」のいずれかから選べます。

「 **カメラ設定**」(P.27) → 「**ファイル名**」より設定してください。

SDIM (初期設定)	ファイル名が「SDIMxxxx.xxx」となります。
DP2Q	ファイル名が「DP2Qxxxx.xxx」となります。

- 途中でファイル名を変更しても、ファイル番号は前回付けられた番号の続きの番号が付けられます。
- 「 **撮影設定**」(P.27) → 「**カラースペース**」で「**Adobe RGB**」が選択されている場合、ファイル名の「SDIM」は「_SDI」、「DP2Q」は「_P2Q」となります。

液晶モニタ表示のカスタマイズ

撮影時に表示されるアイコン類の大きさを変更したり、撮影に便利な機能を追加することができます。

🔍 ディスプレイモード1	
撮影情報	標準 ▶
表示サイズ	標準
グリッド線	切
ヒストグラム	切
日付 / 時刻	切
水準器	切
🔵 決定 MENU 戻る	

1

「🔍 カメラ設定」(P.27) → 「ディスプレイモード設定」からカスタマイズしたいモードを選びます。

2

「入」を選び ▶ ボタンを押します。

3

変更したい項目を選び ▶ ボタンを押します。

メモ

- 不要なディスプレイモードを表示しないようにすることができます。「ディスプレイモード設定」から表示させたくないモードを選び、「切」に設定してください。

撮影情報

撮影情報表示の量を選べます。

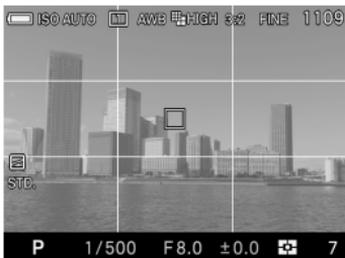
切	画面最下端の情報以外は表示しません。
最少	画面最下端の情報、および電池残量、撮影可能枚数以外は表示しません。
標準	通常の表示状態です。

表示サイズ

撮影情報表示の大きさを選べます。

標準	標準サイズで表示します。
大	標準より大きなサイズで表示します。

グリッド線



構図の決定に便利なグリッド線を表示することができます。

切	表示しません。
- 4 分割(黒)	4 分割黒線表示
- 9 分割(黒)	9 分割黒線表示
- 16 分割(黒)	16 分割黒線表示
- 4 分割(白)	4 分割白線表示
- 9 分割(白)	9 分割白線表示
- 16 分割(白)	16 分割白線表示

ヒストグラム

露出の決定に便利なヒストグラムを表示することができます。

- ヒストグラムの詳細は P.96「ヒストグラム」の項目を参照してください。

切	表示しません。
入	表示します。

日付 / 時刻

日付や時刻を表示することができます。

切	表示しません。
日付	年月日を表示します。
時刻	時刻を表示します。
日付+時刻	年月日と時刻を表示します。

水準器

構図の決定に便利な水準器を表示することができます。

切	表示しません。
入	表示します。

水準器について

カメラの水平方向と垂直方向の傾きを表示します。



- カメラが水平、垂直になると、指標が緑色に変わります。
- 縦位置で撮影する場合、縦位置用の表示に切り替わります。

ご注意 !!

- 水準器は $\pm 1^\circ$ 程度の誤差があります。傾きが大きい状態では誤差が大きくなり、正しく働かない場合があります。
- カメラを真下に構えた場合、水準器は正しく動きません。

水準器調整

水準器の角度のずれを調整できます。

1

「 カメラ設定」(P.27) → 「水準器調整」を選びます。

2

カメラを水平な場所に置いて、**OK** ボタンを押します。

- 調整をリセットしたい場合は、**□** ボタンを押します。工場出荷時の調整値に戻ります。

ダイヤルのカスタマイズ

露出設定時のダイヤルの割り当てや操作方向、フォーカスリングの操作方向などを好みの状態にカスタマイズすることができます。

ダイヤルの機能入換

絞りやシャッタースピードの変更や、露出補正の設定は 前ダイヤルと後ダイヤルを使用しますが、各露出モードごとに、これらの割り当てを変更することができます。

「 撮影設定」(P.27) → 「ダイヤル機能入換」より設定します。



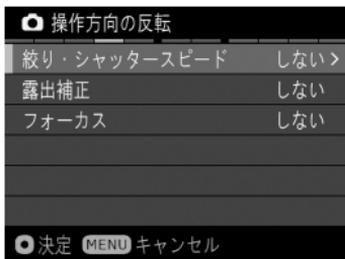
 ボタンで露出モードを選び、 ボタンで機能を変更し、 ボタンで確定します。

ダイヤルの割り当てを初期状態に戻したい場合は、 ボタンを押してリセットし、 ボタンで確定してください。

操作方向の反転

各露出モードにおける、ダイヤルの操作方向や、フォーカスリングの操作方向を反転させることができます。

「 撮影設定」(P.27) → 「操作方向の反転」より設定します。



 ボタンで変更したい項目を選び、 ボタンで「しない」「反転する」を選んだあと、 ボタンで確定します。

各露出モードでのダイヤルの動き（初期設定時）

絞り・シャッター速度

	絞り値	シャッター速度
しない (初期設定)	開く  絞る	遅い  速い
反転する	絞る  開く	速い  遅い

露出補正

	露出補正值
しない (初期設定)	マイナス補正  プラス補正
反転する	プラス補正  マイナス補正

フォーカスリングの反転

	ピント位置
しない (初期設定)	近距離側  遠距離側
反転する	遠距離側  近距離側

LCDオフとオートパワーオフ

dp2 Quattro は電池の消費を抑えるために、ある一定の時間操作しない状態が続くと、自動的に液晶モニタを OFF にする「LCD オフ」と、電源を OFF にする「オートパワーオフ」の機能を備えています。

LCD オフとは

ある一定の時間操作しない状態が続いたとき、電池の消費を抑えるため、自動的に液晶モニタのバックライトを OFF にします。LCD オフ中は、カメラの電源は ON の状態ですので、各ボタンは通常通り操作可能です。シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影を始めることができます。

オートパワーオフとは

LCD オフ中にも操作が行われなかったときに、より電池の消費を抑えるため、自動的にカメラの電源を OFF にします。オートパワーオフ中は、各ボタンは機能しません。電源スイッチを押して、カメラの電源を ON にする必要があります。

「 **カメラ設定**」(P.27) → 「**LCD オフ**」および「**オートパワーオフ**」より設定してください。

LCD オフ

切
10 秒
30 秒
1 分 (初期設定)
5 分
10 分

オートパワーオフ

切
30 秒
1 分
5 分 (初期設定)
10 分

メモ

- 「LCD オフ」の「切」は自動的に消灯しなくなる設定です。
- 「オートパワーオフ」の「切」は自動的に電源が切れなくなる設定です。

ご注意 !!

- 「LCD オフ」の設定は、「オートパワーオフ」の設定よりも長い時間を設定することはできません。例えば「LCD オフ」を「5 分」、「オートパワーオフ」を「1 分」に設定した場合、「LCD オフ」の設定時間が自動的に「1 分」に変更されます。

ECOモード

操作しない時間が 10 秒間続くと、液晶モニタの明るさとフレームレートを落として電池の消費を抑える ECO モードを備えています。

「 **カメラ設定**」(P.27) → 「**ECO モード**」より設定してください。

切（初期設定）	通常モードに設定します。
入	ECOモードに設定します。

音声設定

カメラの各種電子音の設定や、動画、音声メモの再生音量に関する設定を説明します。

音声設定は「 **カメラ設定**」(P.27) → 「**音声**」より行います。

シャッター音

シャッターボタンを押した時に、シャッター音を鳴らしたい場合は「入」、鳴らしたくない場合は「切」に設定してください。

- 「入」が初期設定です。

操作音

ピントが合ったの合焦音、ピントが合わなかった時の警告音、セルフタイマーの作動音を鳴らしたい場合は「入」、鳴らしたくない場合は「切」に設定してください。

- 「入」が初期設定です。

操作音量

シャッター音、操作音の音量を0～5の6段階で設定できます。音量を小さくしたい場合は  ボタン、音量を大きくしたい場合は  ボタンを押してください。

- 0 は音を鳴らさない設定です。
- 3 が初期設定です。

再生音量

動画、および音声メモの音量を0～5の6段階で設定できます。音量を小さくしたい場合は  ボタン、音量を大きくしたい場合は  ボタンを押してください。

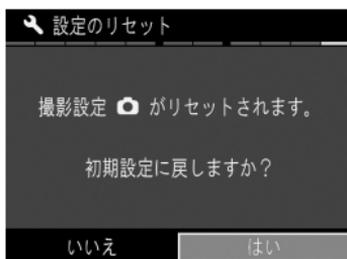
- 0 は音を鳴らさない設定です。
- 3 が初期設定です。

設定の初期化

カメラの設定を初期の設定に戻すことができます。

「🔍 カメラ設定」(P.27) → 「設定のリセット」より初期化を行います。

「📷 撮影設定」(青いタブ)の項目がすべて初期設定に戻ります。



「設定のリセット」画面で <> ボタンを押し、「はい」を選択して OK ボタンを押します。

初期化を中止したい場合は <> ボタンを押して「いいえ」を選択して OK ボタンを押します。

その他の項目も含めてリセットしたい場合は、工場出荷状態に戻す必要があります(日付時刻の設定はリセットされません)。

「設定のリセット」画面で 🏠 ボタンを押すと、「工場出荷状態に戻しますか?」と確認メッセージが切り替わります。

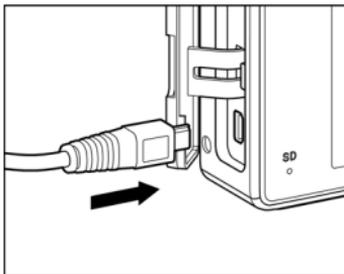
工場出荷状態に戻すには、<> ボタンを押して「はい」を選択して OK ボタンを押します。

中止したい場合は <> ボタンを押して「いいえ」を選択して OK ボタンを押します。

パソコンと接続する

パソコンとの接続について

カードに記録された画像は、dp2 Quattro をパソコンに接続して転送することができます。画像データの転送速度はパソコンの性能やオペレーティングシステムにより変わります。パソコンとの接続方法の詳細は、現像ソフト SIGMA Photo Pro のヘルプをご覧ください。



1

パソコンの電源を入れます。

2

付属の専用 USB ケーブルで、カメラとパソコンを接続します。

警告 !!

- パソコンとカメラを接続している時に、パソコンがスリープ状態になると、転送中のデータが壊れるおそれがあります。パソコンがスリープ状態に入らない設定にしてください。
- パソコンとカメラを接続している時に、あとから他の USB 機器を接続しないでください。転送中のデータが壊れるおそれがあります。
- パソコンとの接続には、付属の専用ケーブル以外は使用しないでください。他のケーブルを使用すると、故障の原因になることがあります。
- USB 接続中は、カメラのシャッターボタンと液晶モニターは使用できません。
- USB 接続中は、カメラのオートパワーオフの機能が働きません。

参考資料

別売アクセサリーの紹介や、カメラのスペックなどを説明します。

別売アクセサリ

エレクトロニックフラッシュ EF-140S SA-STTL

最大ガイドナンバー14 (ISO100・m) の小型オートフラッシュです。詳しくは P.85 をご覧ください。

レンズフード LH4-01

斜めからの不要な光線をカットし、フレアやゴーストを軽減する効果があります。レンズ先端に簡単に取り付けができます。

ビューファインダー VF-41

非常に見え味の良いアルバダ式逆ガリレオファインダーです。カメラのホットシューに取り付けて使用します。液晶モニターを使わずにファインダーを覗いて構図を決める、昔ながらの撮影スタイルで写真を撮ることができます。外光の影響で液晶モニターが見つからない場合などにも確実なフレーミングができます。

ケーブルリリーススイッチ CR-31

カメラ USB 端子に接続して、カメラに触れずにシャッターを切ることができます。カメラを三脚に固定し、カメラから離れてシャッターを切りたい場合や、スローシャッターを切りたい場合などに便利です。(ケーブルの長さ: 約 1m)

カメラケース HC-21

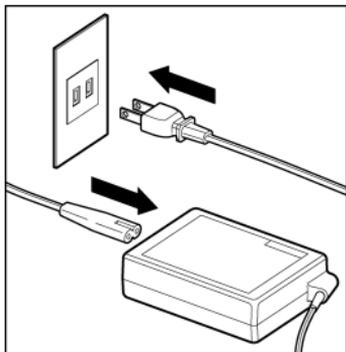
カメラに装着したまま撮影ができる、ジャケットタイプのカメラケースです。カメラにぴったりとフィットし、ホールド性も向上します。

AC アダプター SAC-6

家庭用電源で dp2 Quattro を使用するための専用 AC アダプターです。(AC アダプターとカメラを接続する DC コネクター CN-21 が付属されています。) 屋内で大量に撮影する場合や、画像の転送時等にご使用ください。詳しくは P.128 をご覧ください。

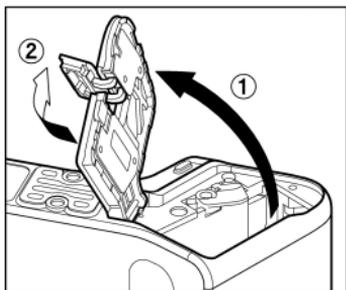
家庭用電源の使い方（別売）

別売りのACアダプター（SAC-6）と DC コネクター（CN-21）を使用し、家庭用電源でカメラを作動させることができます。長時間の撮影、画像の再生、パソコンとの接続時等におすすめします。



1

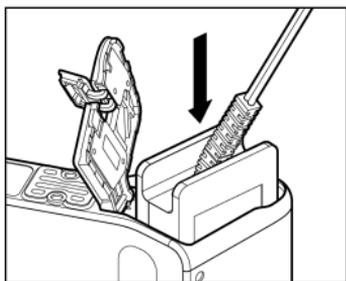
図のように AC ケーブルを AC アダプターとコンセントに接続します。



2

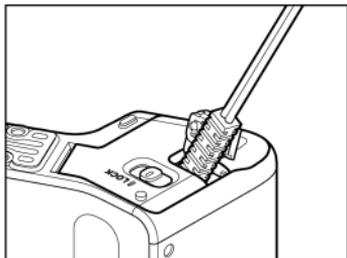
電池室ドアを開き、図のように DC コネクターカバーを開きます。

DC コネクターカバーを強く引っ張ると本体から外れてしまうのでご注意ください。



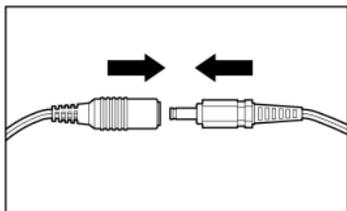
3

図のように DC コネクターをロックされるまで押し込みます。



4

DC コネクターのコードを挟み込まないように注意しながら、電池室ドアを閉めます。

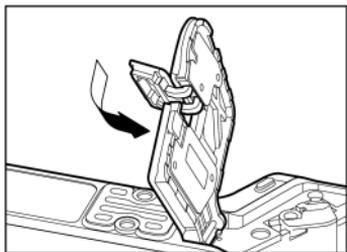


5

AC アダプターのプラグと DC コネクターのジャックを接続します。

警告 !!

- アクセスランプが点灯している時には、絶対に電池室ドアを開けないでください。電源が落ち、書き込み中のデータが失われます。また、カードが損傷する場合があります。
- 使い終わったらカメラの電源を OFF にして、プラグをコンセントから抜いてください。



DC コネクターを取り外したあとは、図のように DC コネクターカバーを閉めてください。

お手入れについて

- ボディやレンズのお手入れにシンナーやベンジンなどの有機溶剤は表面の仕上げをいためますので絶対に使用しないでください。ボディやレンズの鏡筒部は柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。レンズ面についたほこり等は市販のプロワーで軽く吹き飛ばす程度にし、指紋などがついてしまった場合は市販のレンズクリーナーを使用して慎重に拭きとってください。
- 注油の必要はありません。注油は逆効果の恐れがありますので絶対にしないでください。
- 液晶モニタにほこりやゴミ等が付着した場合は、市販のプロワーで吹き飛ばしてください。汚れがひどいときは柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。

保管について

- 長期間ご使用にならないときは、液漏れによるカメラの破損を防ぐため、電池を取り出して保管してください。
- カビや錆の発生を防ぐため、風通しのよい乾燥した場所に保管してください。カメラを乾燥剤といっしょにビニール袋に入れて保管するのも有効な手段です。ただし乾燥剤は有効期限がありますので、ときどき交換してください。ナフタリン等の防虫剤はカメラに悪影響を与えますのでいっしょに保管しないでください。

液晶モニタについて

- 液晶モニタはその特性上、一部の画素に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。また、記録されるデータには影響ありません。予めご了承ください。
- 液晶の特性により、低温下で表示の反応が遅くなることがあります。また、高温下で表示が黒くなるがありますが、常温になれば正常に戻ります。

困ったときは

カメラの調子が悪かったり写真がうまく写らなかった場合、故障と思われる前に次の点を確認してください。

液晶モニタになんの表示も出ない。

電池が消耗している。

- ▶ 充電された電池と交換してください。(P.20 - 23)

液晶モニタが OFF になっている。

- ▶ ボタンを押して液晶モニタを表示させてください。(P.36)

LCD オフ状態になっている。

- ▶ シャッターボタンを半押しする、もしくはいずれかのボタンを押してください。(P.120)

シャッターが切れない。

データ処理中（ビジー状態）になっている。

- ▶ 処理が終わるまでお待ちください。

カードの使用容量がいっぱいになっている。

- ▶ 新しいカードを入れるか、いらぬ画像を消去して容量を空けてください。(P.97 - 98)

オートフォーカスが動かない。

フォーカスモードが MF になっている。

- ▶ フォーカスモードボタンを押してモードを切り換えてください。(P.48)

電源が勝手に切れる。

オートパワーオフが働いている。

- ▶ バッテリーの消耗を抑えるためにオートパワーオフ機能が働いています。不都合がある場合は、セットアップメニューでオートパワーオフの設定を「切」に設定してください。(P.120)

撮影・記録ができない。

カードの使用容量がいっぱいになっている。

- ▶ 新しいカードを入れるか、いらぬ画像を消去して容量を空けてください。(P.97 - 98)

電池が消耗している。

- ▶ 充電された電池と交換してください。(P.20 - 23)

カードにロックがかかっている。

- ▶ カードのロックを解除してください。(P.11)

カードのデータが壊れている。

- ▶ カードに必要なデータが残っている場合にはパソコンにバックアップをとった後、カメラでカードを初期化してください。(P.39)

液晶モニタの表示・画像が不鮮明になる。

ゴミや汚れが付いている。

- ▶ ブロワーで吹き飛ばしたり、柔らかい清潔な布で拭き取ってください。(P.130)

液晶モニタが劣化している。

- ▶ お買い上げの販売店、もしくは弊社カスタマーサポートにご相談ください。

画像がボケて写っている。

ピントが合わないままシャッターを切っている。

- ▶ シャッターを半押しして、フォーカスフレームが緑色になったのを確認してシャッターを切ってください。(P.48)

フォーカスモードが MF になっている。

- ▶ フォーカスモードボタンを押してモードを切り換えてください。(P.48)

手ブレをおこしている。

- ▶ フラッシュ撮影をするか、三脚等を利用してカメラを固定して撮影してください。(P.85)

画像の一部に白または色の付いたドット状やモヤ状のものが写る

カメラを向けた方向に強い光源があり、画像にゴーストやフレアが写っている。

- ▶ 強い光源の影響により、ゴーストやフレアが発生する場合があります。構図の変更や絞りを変化させ撮影してください。また、斜め方向からの不要な光はレンズフード（別売）のご使用で軽減させることができます。（P.127）

白飛び軽減設定している。

- ▶ 光の状態によっては、白飛び軽減機能でも適切に調整できず、被写体の一部に色付が発生する場合があります。その場合は白飛び軽減を「切」でご使用ください。（P.81）

画像を消去できない。

画像にロックがかかっている。

- ▶ ロックを解除してください。（P.100 - 102）

カードにロックがかかっている。

- ▶ カードのロックを解除してください。（P.11）

撮影年月日・時間が正しく表示されない。

日付・時間が正しく設定されていない。

- ▶ 日付・時間を正しく設定してください。（P.25）

音声再生されない。

音量がゼロになっている。

- ▶ 「 **カメラ設定**」（P.27）→ 「**音声**」→ 「**再生音量**」を調整してください。（P.122）

主な仕様

撮像素子	FOVEON X3 ダイレクトイメージセンサー (CMOS)
撮像素子サイズ	23.5 × 15.7mm
画素数	有効画素数：約 29MP (T(トップ)：5,424×3,616 / M(ミドル)：2,712×1,808 / B(ボトム)：2,712×1,808) 総画素数：約 33MP
アスペクト比	3 : 2 (21:9, 16:9, 4:3, 1:1)
レンズ	30mm (35mm カメラ換算：45mm 相当の画角)
レンズF値	F2.8 ~ F16
レンズ構成	6群8枚
撮影範囲	28cm ~ ∞、LIMIT モード (マクロ、ポートレート、風景、カスタムより選択可能)
最大撮影倍率	1:7.6
フィルターサイズ	58mm
記録媒体	SD / SDHC / SDXC メモリーカード
記録フォーマット	Exif 2.3 準拠、DCF 2.0 準拠、DPOF 準拠
記録方式	ロスレス圧縮 RAW (14-bit)、JPEG (Exif 2.3)、RAW+JPEG
画像サイズ(3:2 時) (記録画素数)	SUPER-HIGH(JPEG) : 7680 x 5120 画素 HIGH : 5424 x 3616 画素 LOW : 2704 x 1808 画素
画質モード	RAW、JPEG (Fine, Normal, Basic)、RAW+JPEG (Fine)
ホワイトバランス	10 種 (オート、オート(色残し)、晴れ、日陰、くもり、白熱電球、蛍光灯、フラッシュ、色温度指定、カスタム)
カラーモード	11 種 (スタンダード、ビビッド、ニュートラル、ポートレート、風景、シネマ、サンセットレッド、フォレストグリーン、FOV クラシックブルー、FOV クラシックイエロー、モノクローム)
ISO 感度 (推奨露光指数)	ISO 100~ISO 6400 (1/3 段ステップで設定可能) AUTO : ISO100~ISO 6400 の範囲で上限、下限の設定が可能。フラッシュ撮影時は下限設定時により変化
オートフォーカス	コントラスト検出方式

測距点	9点選択モード、自由移動モード (3段階にフォーカスフレームの大きさが変更可能) 顔優先 AF モード
フォーカスロック	シャッター半押しによる (メニュー設定により AE ロックボタンによる AF ロック可)
マニュアルフォーカス	フォーカスリング式
測光方式	評価測光、中央部重点平均測光、スポット測光
露出制御方式	(P) プログラム AE、(A) 絞り優先 AE、 (S) シャッター優先 AE、(M) マニュアル
露出補正	±3EV (1/3 ステップ)
AE ロック	AE ロックボタンによる
オートブラケット	±3EV (1/3 ステップ、適正→アンダー→オーバー) (順序変更可)
シャッター速度	1/2000 秒 ~ 30 秒 (最高シャッター速度は、絞りによって変化)
フラッシュモード	強制発光、赤目軽減発光、スローシンクロ
外部フラッシュ	ホットシュー (X 接点、専用フラッシュ連動接点付)
ドライブモード	1コマ撮影、連続撮影、セルフタイマー (2/10 秒) インターバルタイマー
液晶モニタ	約 92 万ドット 3.0 型 TFT カラー液晶
表示言語	17 言語 (英語・日本語/ドイツ語/フランス語/ス 페인語/イタリア語/簡体中文/繁体中文/韓国 語/ロシア語/オランダ語/ポーランド語/ポルト ガル語/デンマーク語/スウェーデン語/ノルウェ ー語/フィンランド語)
インターフェース	USB / リリース専用端子
電源	専用リチウム充電電池 (Li-ion Battery BP-51)、 AC アダプター SAC-6 (DC コネクタ CN-21 併 用)(別売)
撮影可能枚数	約 200 枚 (Li-ion Battery BP-51 使用、25°C 時)
大きさ	161.4mm (幅) × 67mm (高さ) × 81.6mm (奥行)
質量	410g (電池、カード除く)

製品のお問い合わせは…

シグマ カスタマーサポート部

フリーコール : **0120-9977-88**

(携帯電話・PHS をご利用の方は 044-989-7436 にご連絡ください)

サポート・インターネットページアドレス

<http://www.sigma-photo.co.jp/support/index.htm>

株式会社シグマ

本 社

〒215-8530 神奈川県川崎市麻生区栗木 2 丁目 4 番 16 号

☎ (044) 989-7430 (代) FAX: (044) 989-7451

インターネットホームページアドレス <http://www.sigma-photo.co.jp>